

参考資料

目次

1. がんによる死亡者の減少について

- ・ がん死亡者・粗死亡率の推移、がん部位別死亡割合----- P.3
- ・ 5大がん部位別年齢調整死亡率の推移----- P.5

2. がんの罹患状況

- ・ がんの罹患状況の推移、罹患割合----- P.9
- ・ 5大がん部位別年齢調整罹患率の推移----- P.11

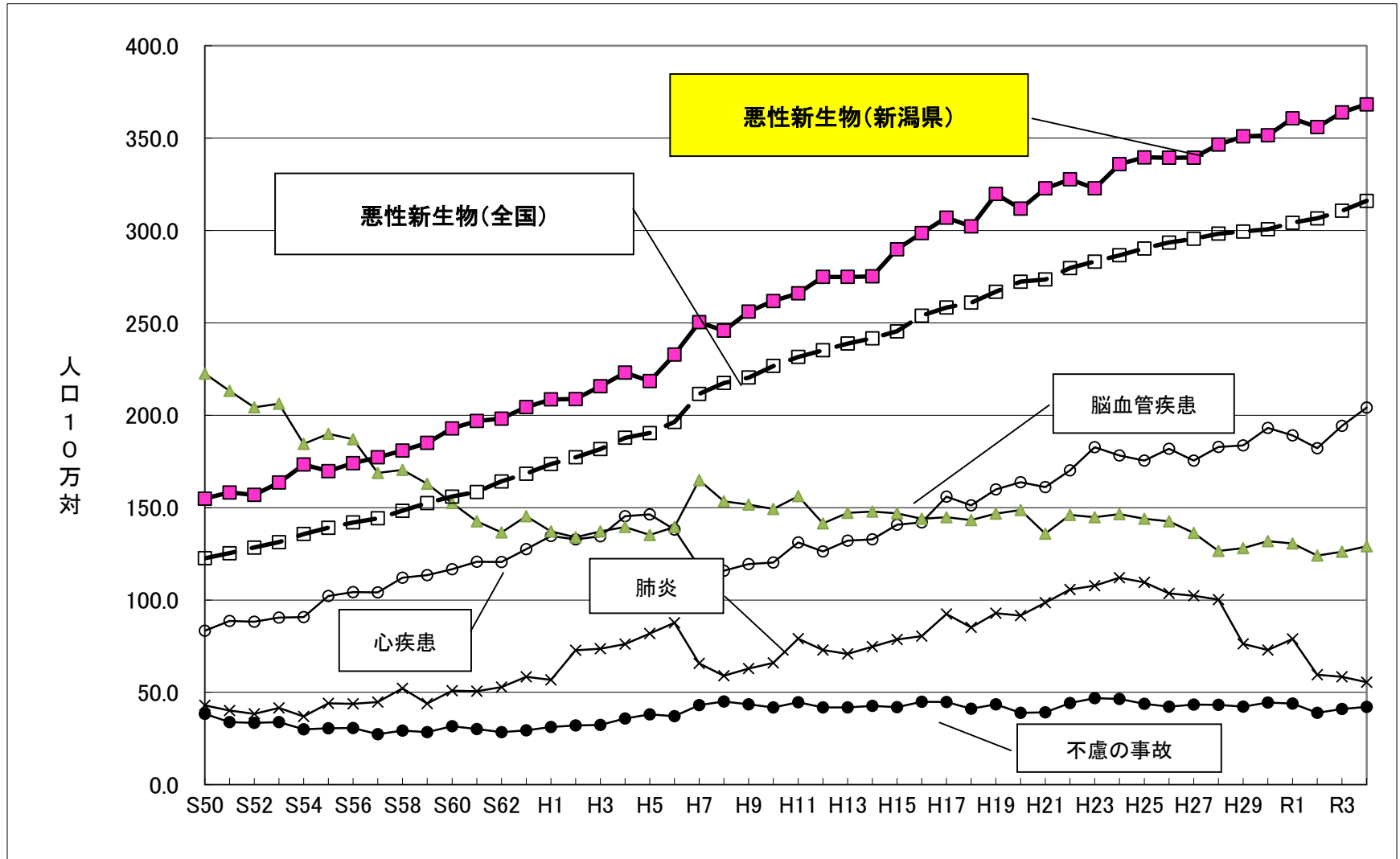
3. がんの予防・早期発見

- ・ がん検診受診率の推移、部位別年齢階級別受診率、精密検査受診率の推移----- P.16
- ・ 成人喫煙率の推移----- P.24
- ・ HPVワクチン接種状況----- P.25

4. 働く世代や小児へのがん対策の充実

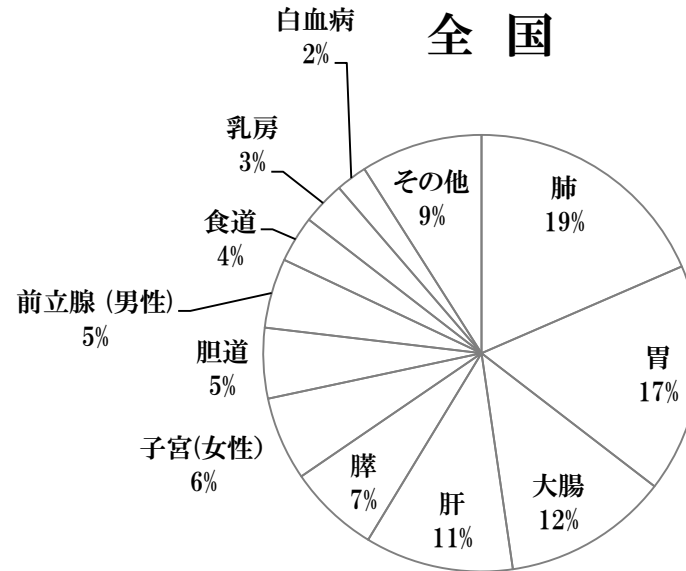
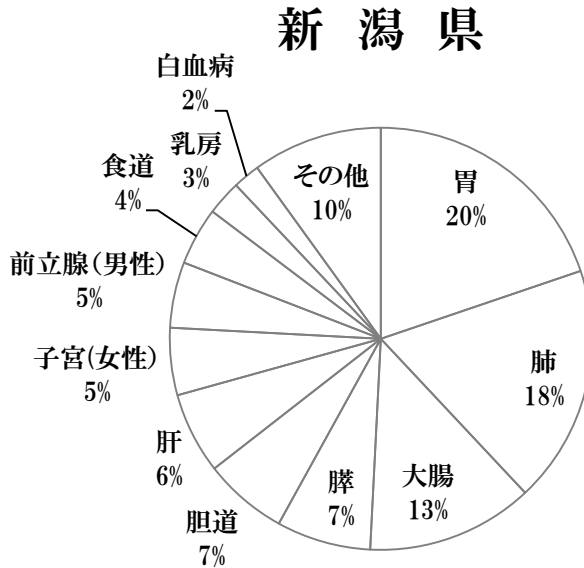
- ・ 生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率----- P.28
- ・ 市町村がん検診受診者数の推移----- P.33
- ・ 働く世代等のがん検診受診率向上に向けた県の主な取組----- P.34
- ・ 新潟県における未成年者のがん罹患数・死亡数----- P.35

がん死亡者数・粗死亡率の推移



部位別の死亡割合：全国との比較（H3～H22までの20年間平均死亡割合）

【総数】



出典：新潟県のがん登録 ～地域がん登録20年のあゆみ～

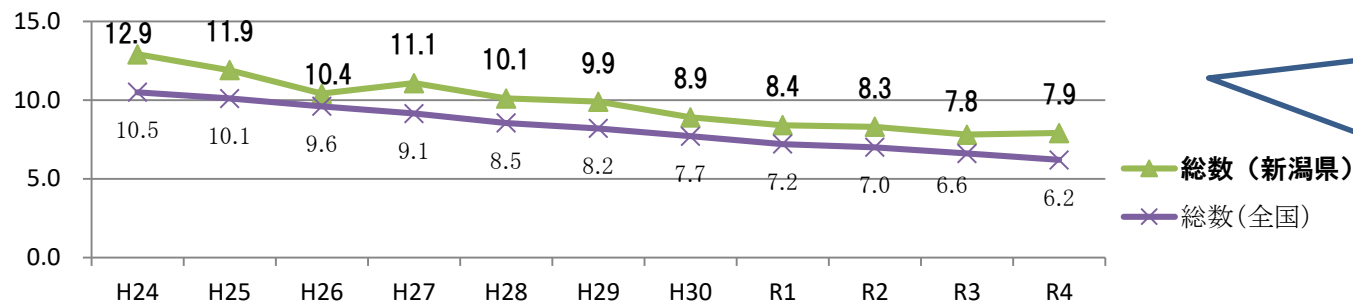
・20年間の平均における死亡の第1位は、全国では肺がんとなっているが、新潟県では胃がんである。

・新潟県において地域がん登録が開始された平成3年は、全国、新潟県共に胃がんが1位であった。全国では、肺がんが20年間の平均で胃がんと順位を逆転し1位になっているが、新潟県においては順位逆転が生じておらず、胃がんが1位のままである。

➡ 新潟県においては、胃がんによる死亡者が多いことを示している。

5大がん部位別年齢調整死亡率の推移：全国との比較

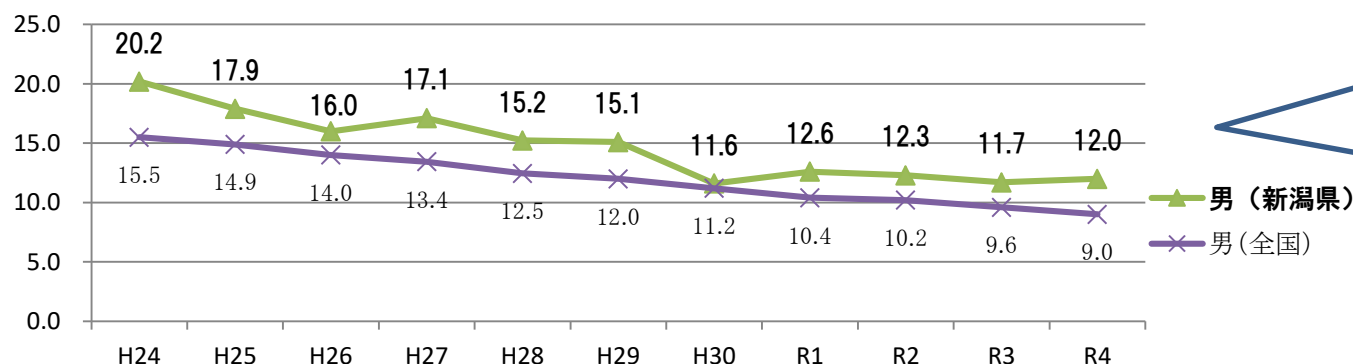
【胃】75歳未満年齢調整死亡率(男女計)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移: 12.9(H24)→7.9(R4)へと減少
- ・年々減少する傾向にあるが、依然として全国よりも高い数値である。

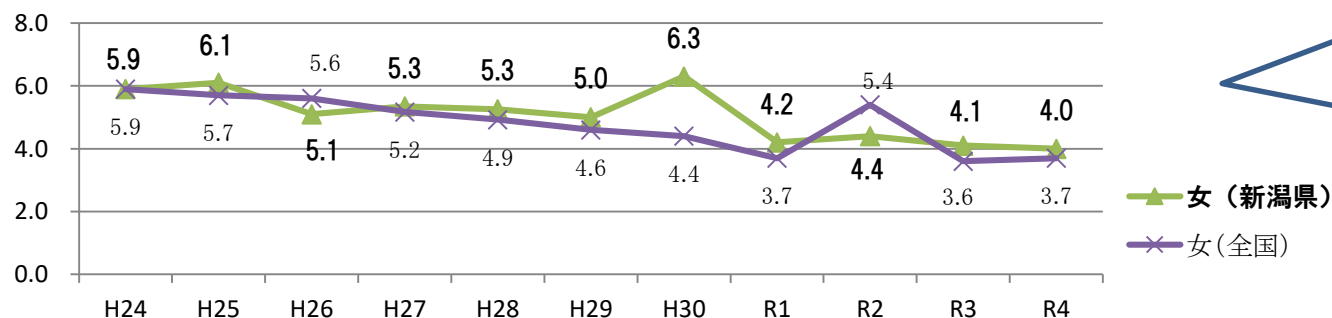
【胃】75歳未満年齢調整死亡率(男)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移: 20.2(H24)→12.0(R4)へと減少
- ・減少しているが、依然として全国よりも高い数値である。

【胃】75歳未満年齢調整死亡率(女)[人口10万対]

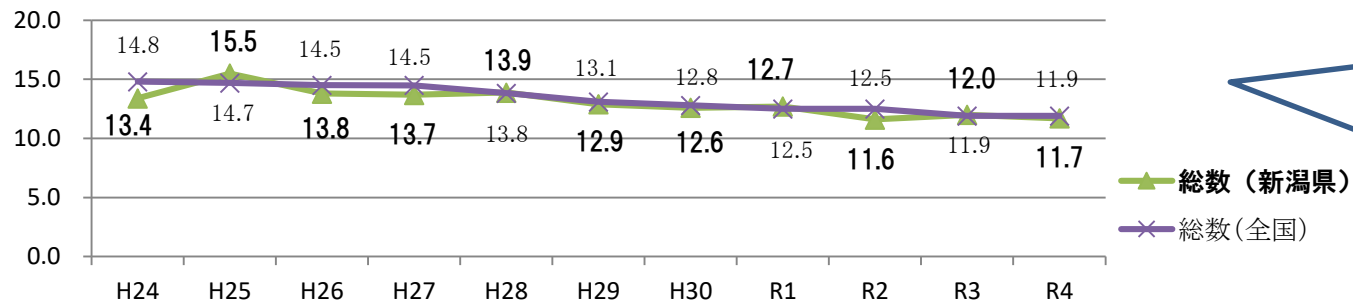


【新潟県の状況】

- ・推移: 5.9(H24)→4.0(R4)へと減少
- ・減少しているが、全国よりも高い数値である。

5大がん部位別年齢調整死亡率の推移：全国との比較

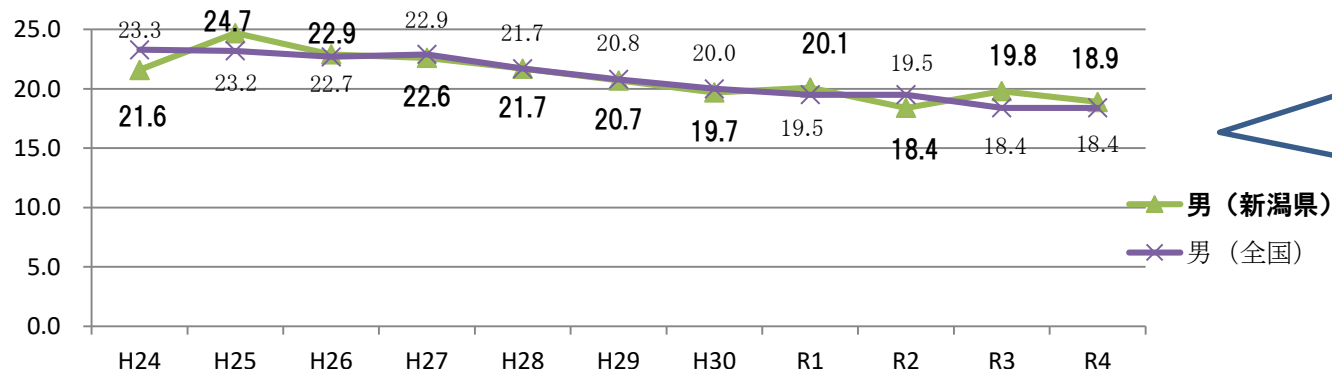
【肺】75歳未満年齢調整死亡率(男女計)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・県推移: 13.4 (H24) → 11.7 (R4) へと減少
- ・減少傾向にあり、全国と同程度で推移している。

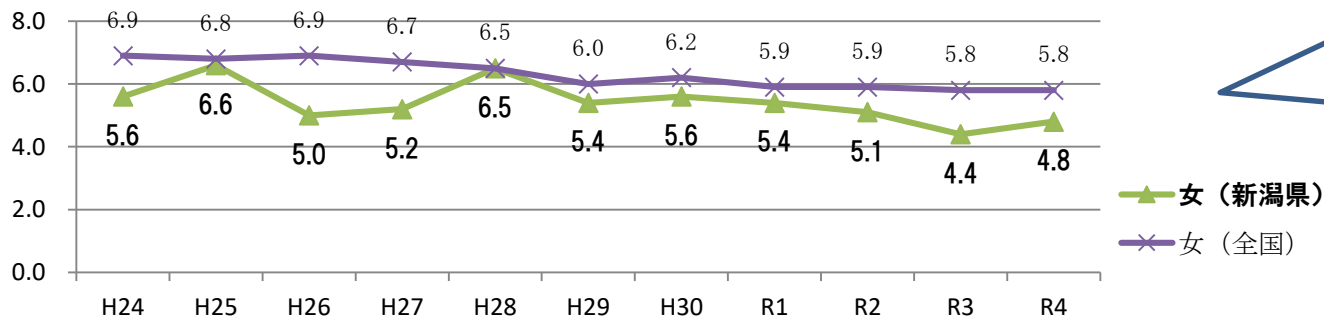
【肺】75歳未満年齢調整死亡率(男)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移: 21.6 (H24) → 18.4 (R4) へと減少
- ・減少傾向にあるが、全国よりも高い数値である。

【肺】75歳未満年齢調整死亡率(女)[人口10万対]

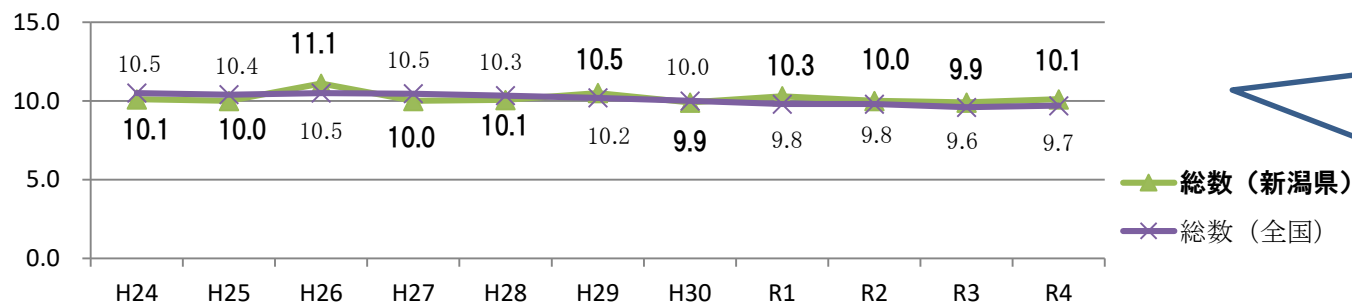


【新潟県の状況】

- ・推移: 5.6 (H24) → 4.8 (R4) へと減少
- ・各年で増減しているが、全国よりも低い数値である。

5大がん部位別年齢調整死亡率の推移：全国との比較

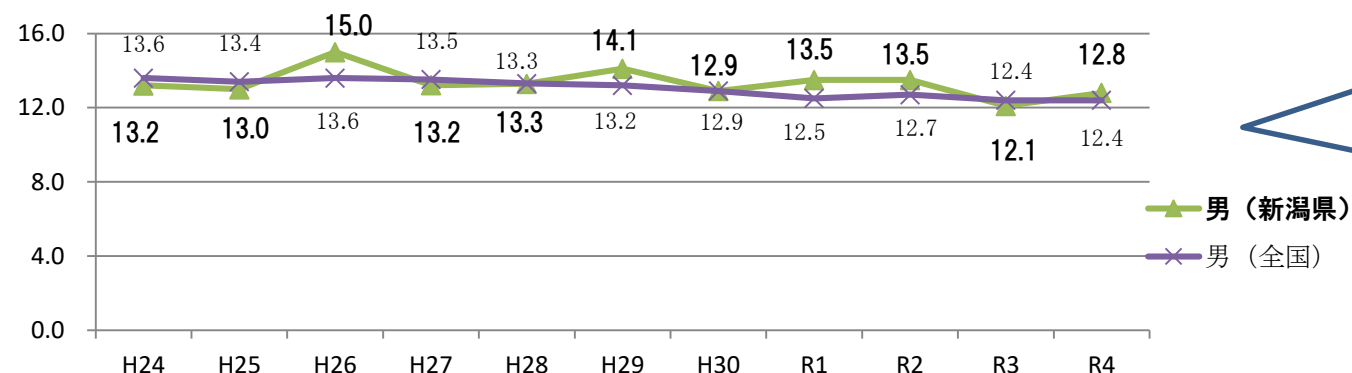
【大腸】75歳未満年齢調整死亡率(男女計)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移：10.1(H24)→10.1(R4) 増減なし
- ・各年で増減しており、R4時点ではH24から増減なし。

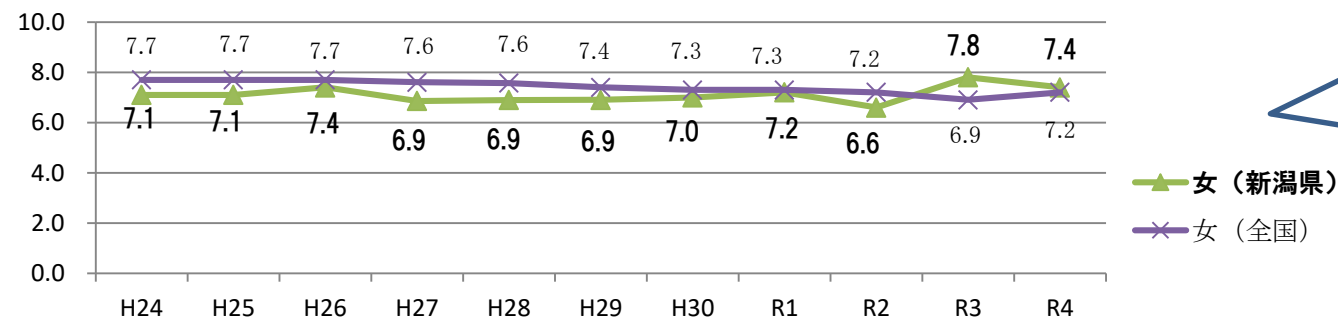
【大腸】75歳未満年齢調整死亡率(男)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移：13.2(H24)→12.8(R4) へと減少
- ・各年で増減しており、R4時点ではH24よりも減少している。

【大腸】75歳未満年齢調整死亡率(女)[人口10万対]

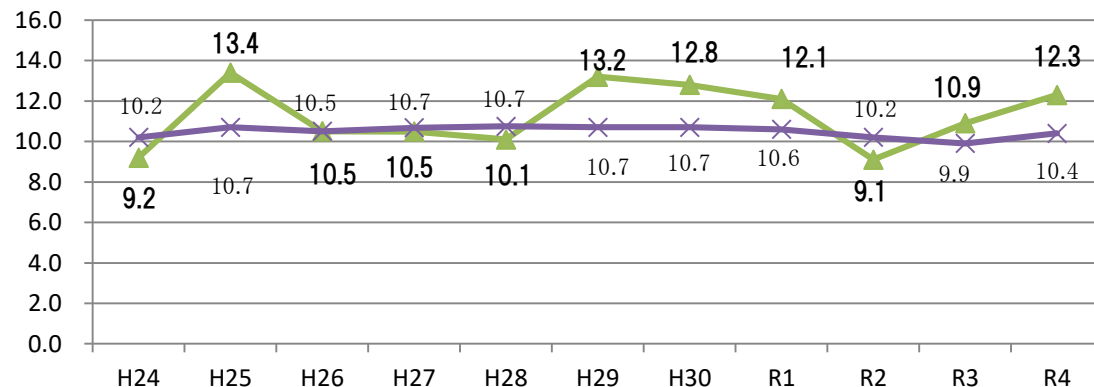


【新潟県の状況】

- ・推移：7.1(H24)→7.4(R4) へと増加
- ・各年で増減しており、R4時点ではH24よりも増加している。

5大がん部位別年齢調整死亡率の推移：全国との比較

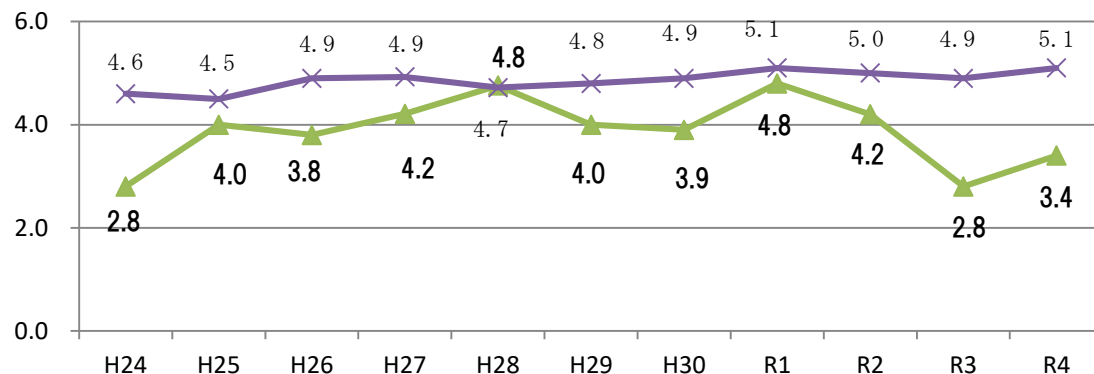
【乳】75歳未満年齢調整死亡率(女)[人口10万対]



【新潟県の状況】

- ・推移：9.2(H24)→12.3(R4)へと増加
- ・各年で増減しているが、R4時点ではH24よりも3.1ポイント増加している。

【子宮】75歳未満年齢調整死亡率(女)[人口10万対]

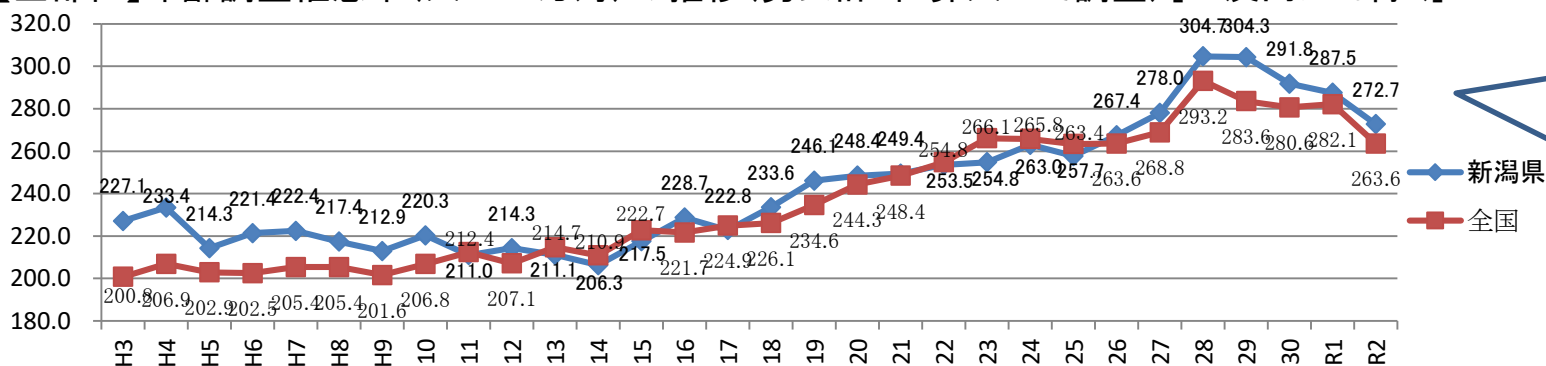


【新潟県の状況】

- ・推移：2.8(H24)→3.4(R4)へと増加
- ・各年で増減しており、R4時点ではH24よりも増加している。

がんの罹患状況の推移：全国との比較

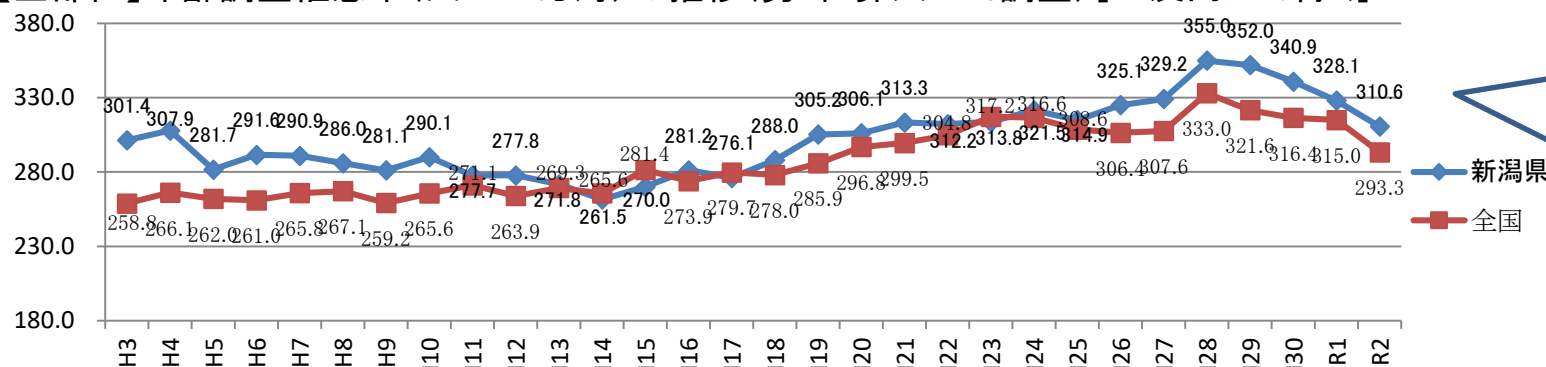
【全部位】年齢調整罹患率(人口10万対)の推移(男女計・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

・平成11年以降、新潟県と全国に殆ど差は無い状態で、両者共に徐々に増加している。

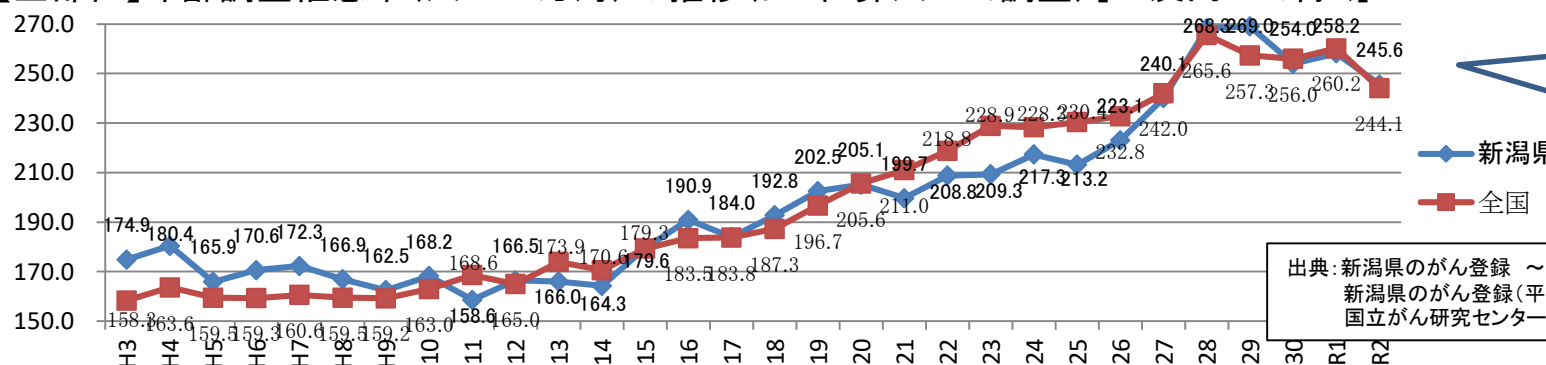
【全部位】年齢調整罹患率(人口10万対)の推移(男・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

・男女計とほぼ同じ傾向で推移しているが、平成26年以降は全国との差が拡大している。

【全部位】年齢調整罹患率(人口10万対)の推移(女・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



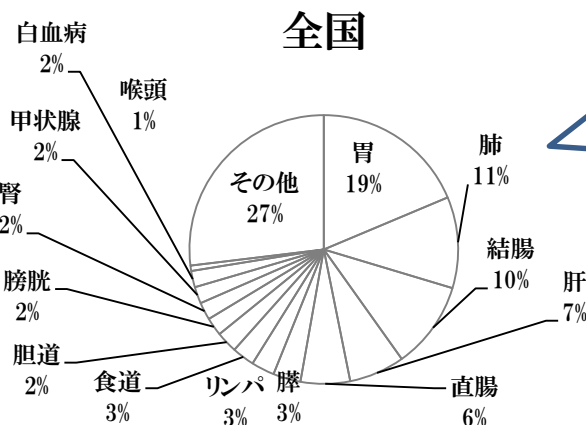
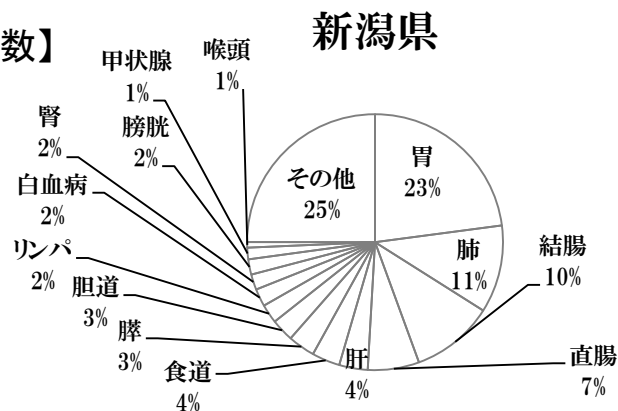
【新潟県の状況】

・男女計とほぼ同じ傾向で推移。

出典：新潟県のがん登録 ～地域がん登録20年のあゆみ～
新潟県のがん登録(平成23～令和元年標準集計)
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

罹患の割合(上皮内がんを含む):全国との比較(H3~H22までの20年間平均罹患割合)

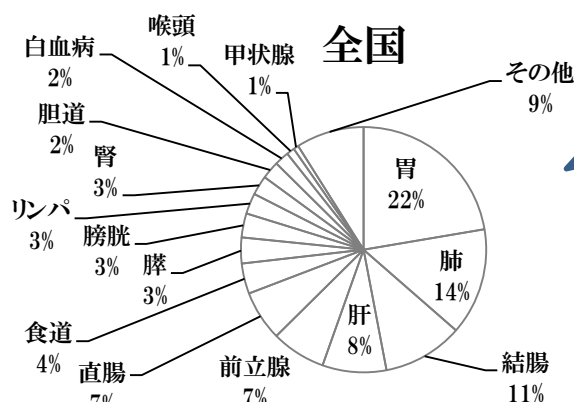
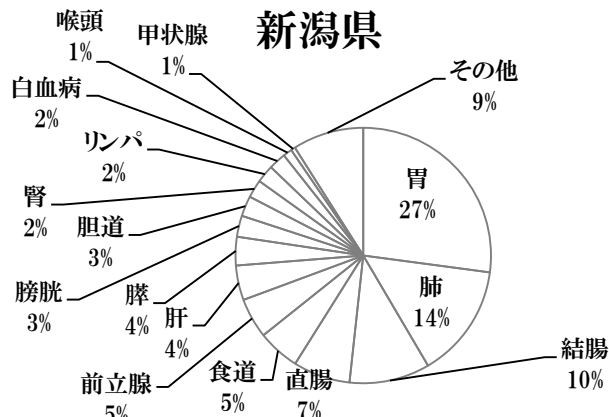
【総数】



【新潟県の状況】

- ・全国と比較すると、胃がんの罹患が多く、肝がんの罹患が少ない。

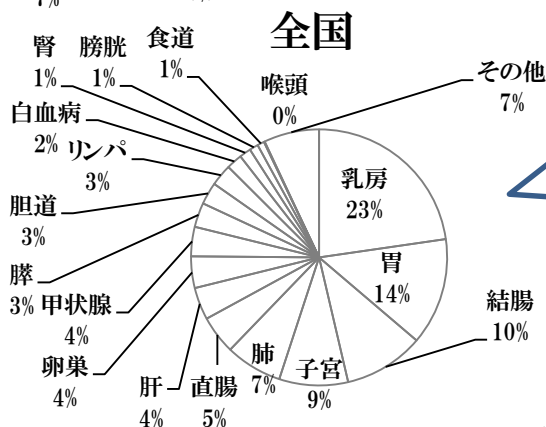
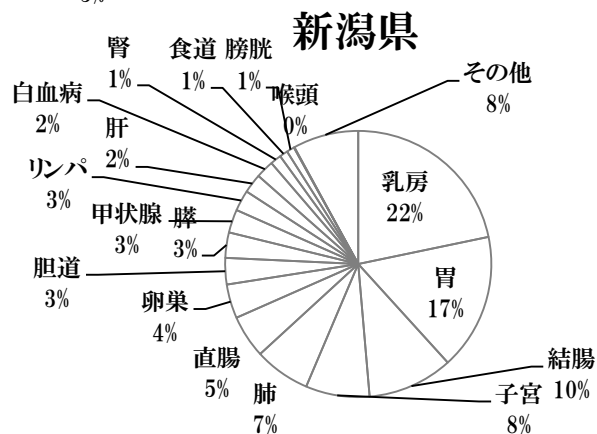
【男】



【新潟県の状況】

- ・全国と比較すると、胃がんの罹患が多く、肝がんの罹患が少ない。

【女】

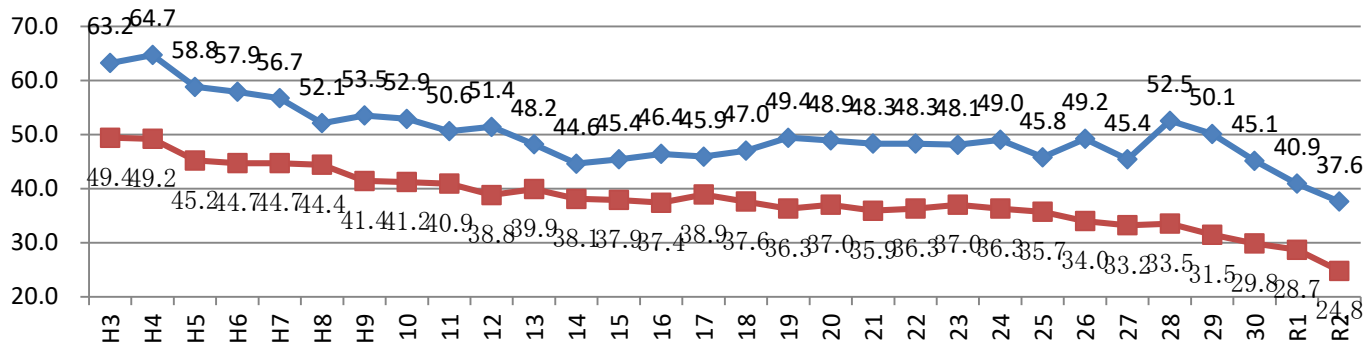


【新潟県の状況】

- ・全国と比較すると、胃がんの罹患が多く、肝がんの罹患が少ない。

5大がん部位別年齢調整罹患率の推移：全国との比較

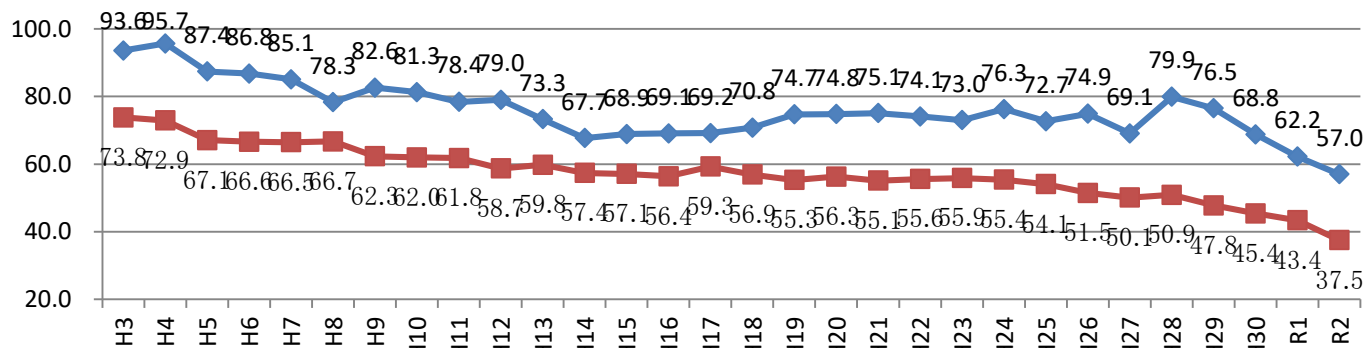
【胃】年齢調整罹患率[人口10万対](男女計・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

- ・新潟県、全国共に概ね減少傾向にある。
- ・新潟県の方が全国より、罹患率が高い。

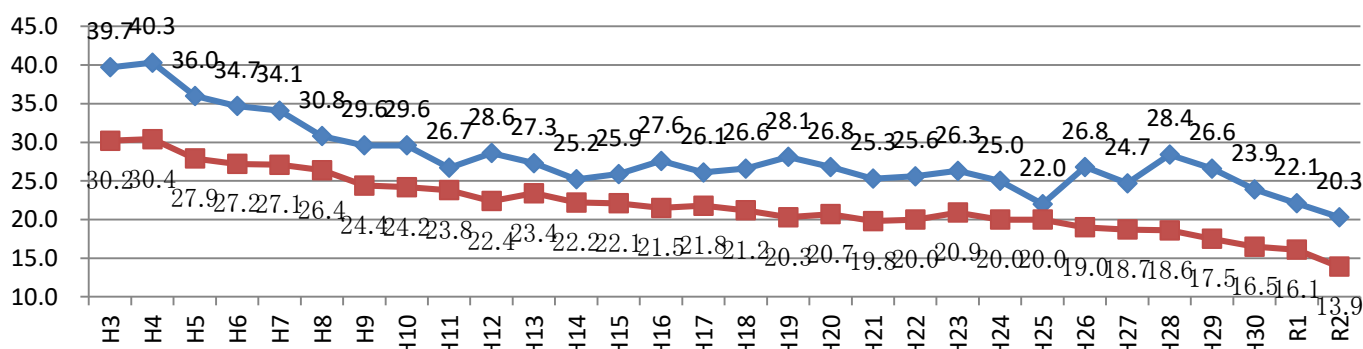
【胃】年齢調整罹患率[人口10万対](男・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

- ・男女計とほぼ同じ傾向で推移。

【胃】年齢調整罹患率[人口10万対](女・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



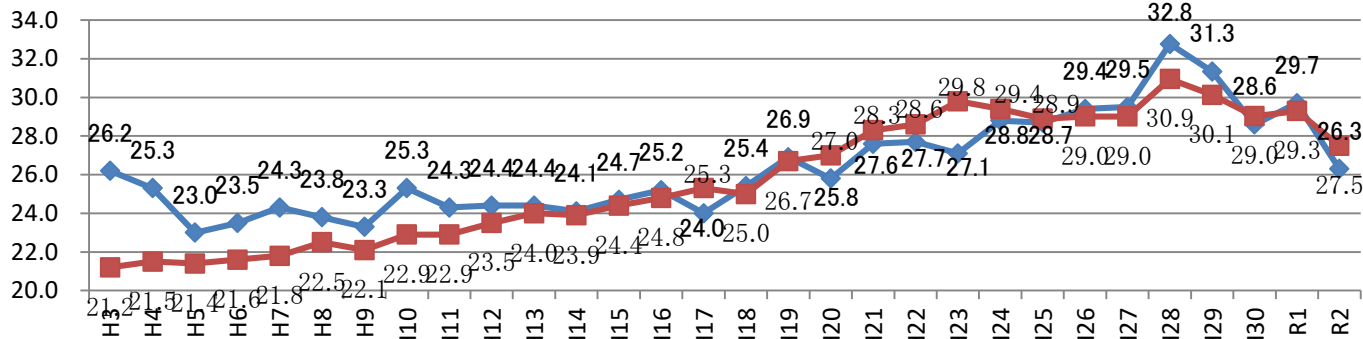
【新潟県の状況】

- ・男女計とほぼ同じ傾向で推移。

出典：新潟県のがん登録 ～地域がん登録20年のあゆみ～
新潟県のがん登録(平成23～令和元年標準集計)
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

5大がん部位別年齢調整罹患率の推移：全国との比較

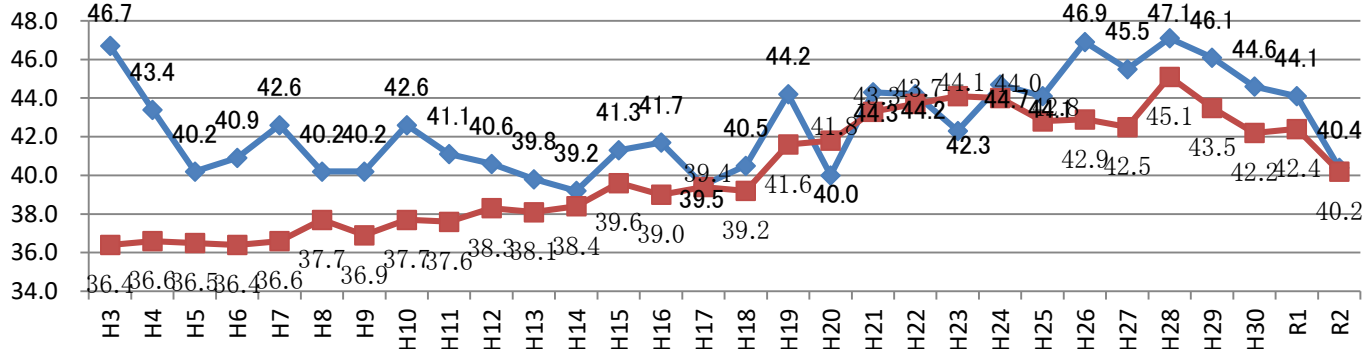
【肺】年齢調整罹患率[人口10万対](男女計・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

- ・新潟県、全国共に増加傾向にある。
- ・平成12年以降、新潟県と全国で罹患率に大きな違いは見られないが、近年は新潟県の方がやや罹患率が高くなっている。

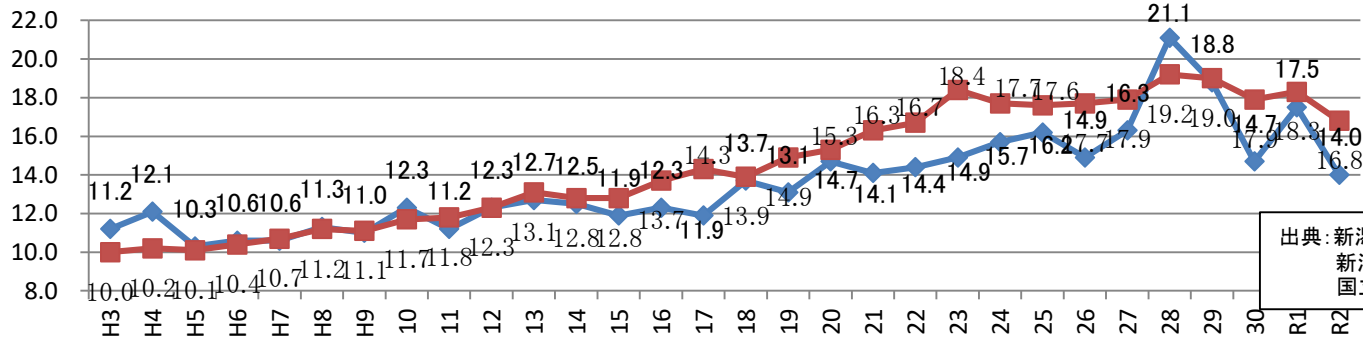
【肺】年齢調整罹患率[人口10万対](男・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

- ・全国は男女計と同様、増加傾向にある。
- ・新潟県は各年で増減しており、概ね全国よりも高い水準で推移しているが、平成26年以降は差が拡大。

【肺】年齢調整罹患率[人口10万対](女・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



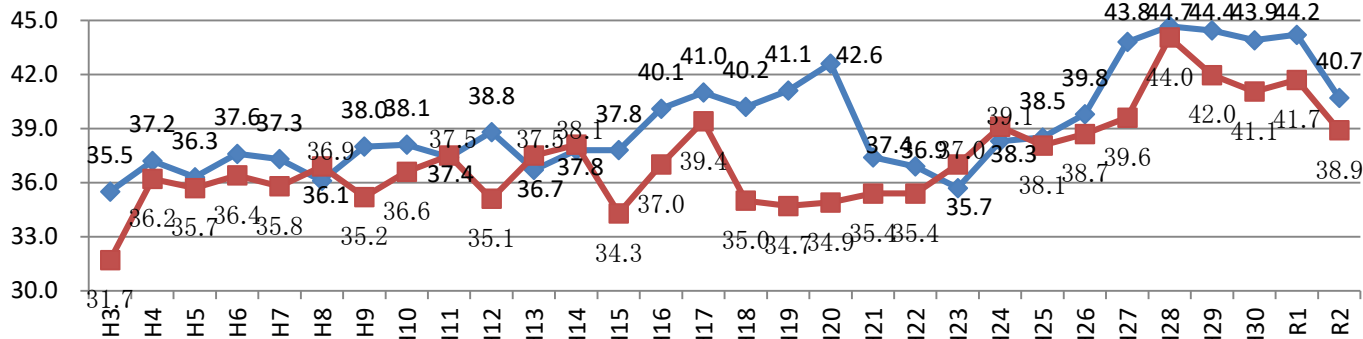
【新潟県の状況】

- ・男女計と同様、増加傾向にある。
- ・新潟県は全国よりも低い水準で推移。

出典：新潟県のがん登録 ～地域がん登録20年のあゆみ～
新潟県のがん登録(平成23～令和元年標準集計)
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

5大がん部位別年齢調整罹患率の推移：全国との比較

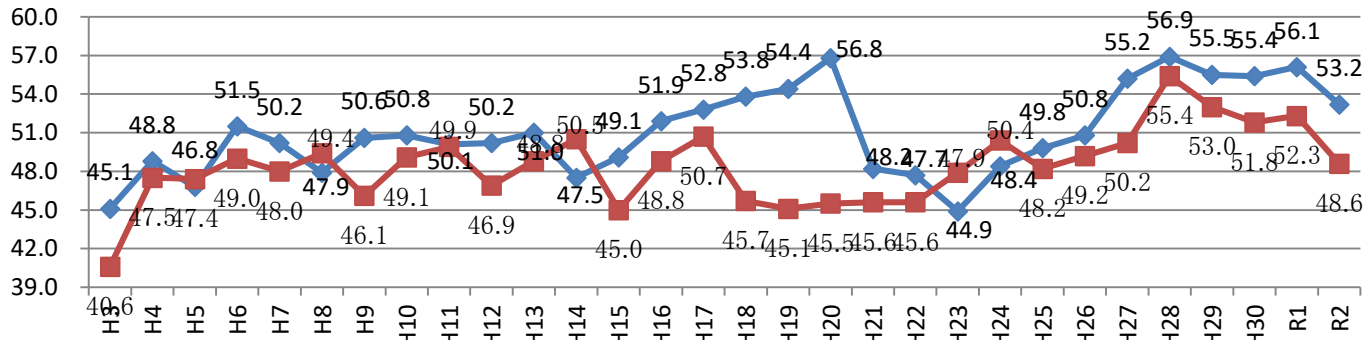
【大腸】年齢調整罹患率[人口10万対](男女計・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

・平成17年までは新潟県、全国ともにほぼ同様の数値。
 ・平成18年以降、新潟県の罹患率が著しく増加し全国値を大幅に上回っていたが、平成21年以降はほぼ同様の数値で推移しており、新潟県の方が罹患率が高くなっている。

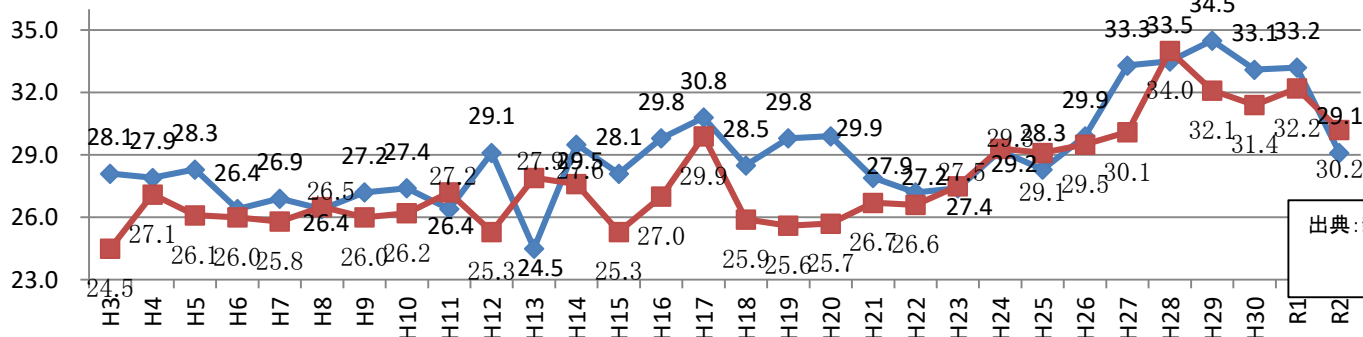
【大腸】年齢調整罹患率[人口10万対](男・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



【新潟県の状況】

・男女計とほぼ同じ傾向で推移。

【大腸】年齢調整罹患率[人口10万対](女・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



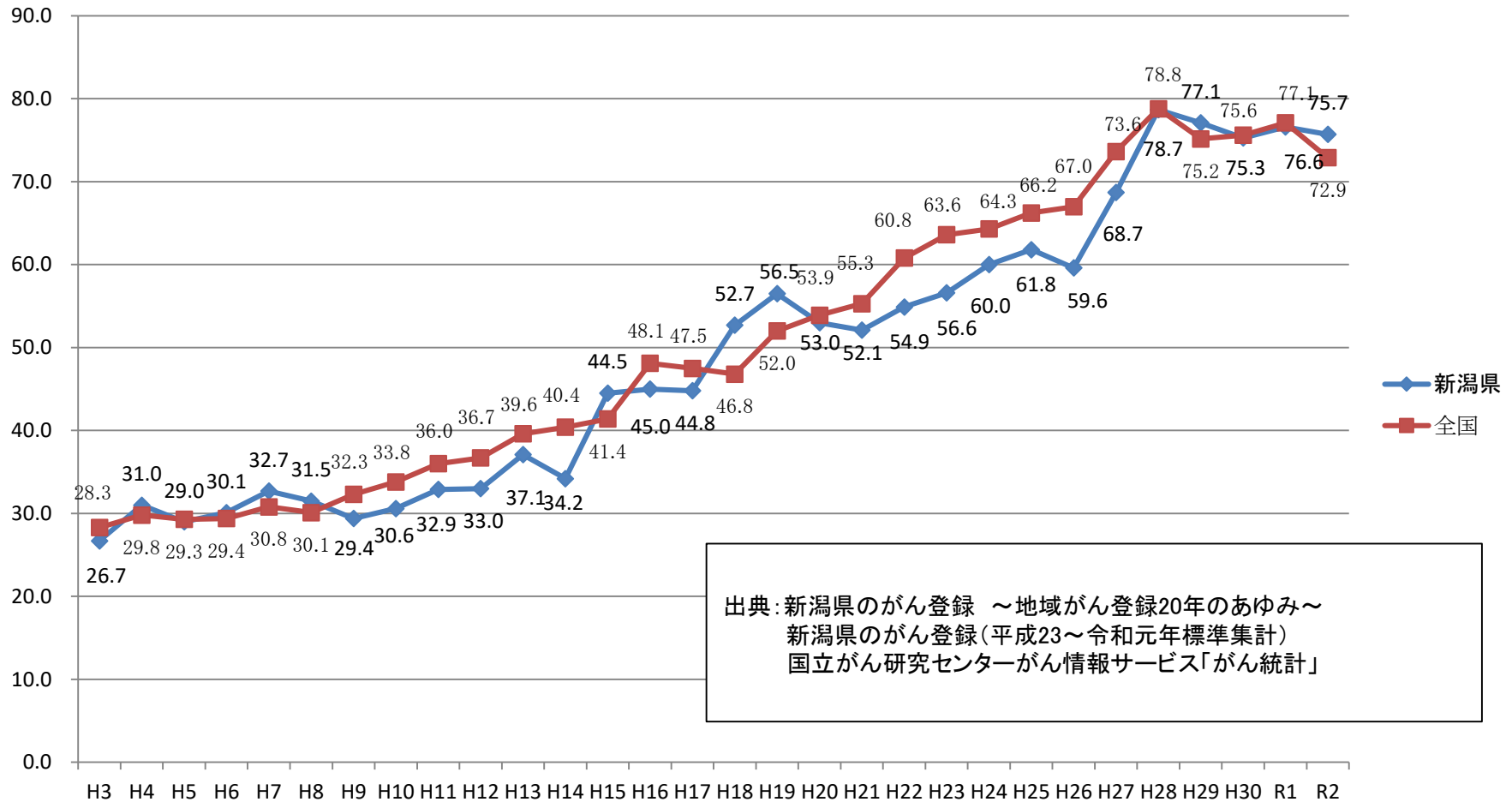
【新潟県の状況】

・男女計とほぼ同じ傾向で推移。

出典：新潟県のがん登録 ～地域がん登録20年のあゆみ～
 新潟県のがん登録(平成23～令和元年標準集計)
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

5大がん部位別年齢調整罹患率の推移：全国との比較

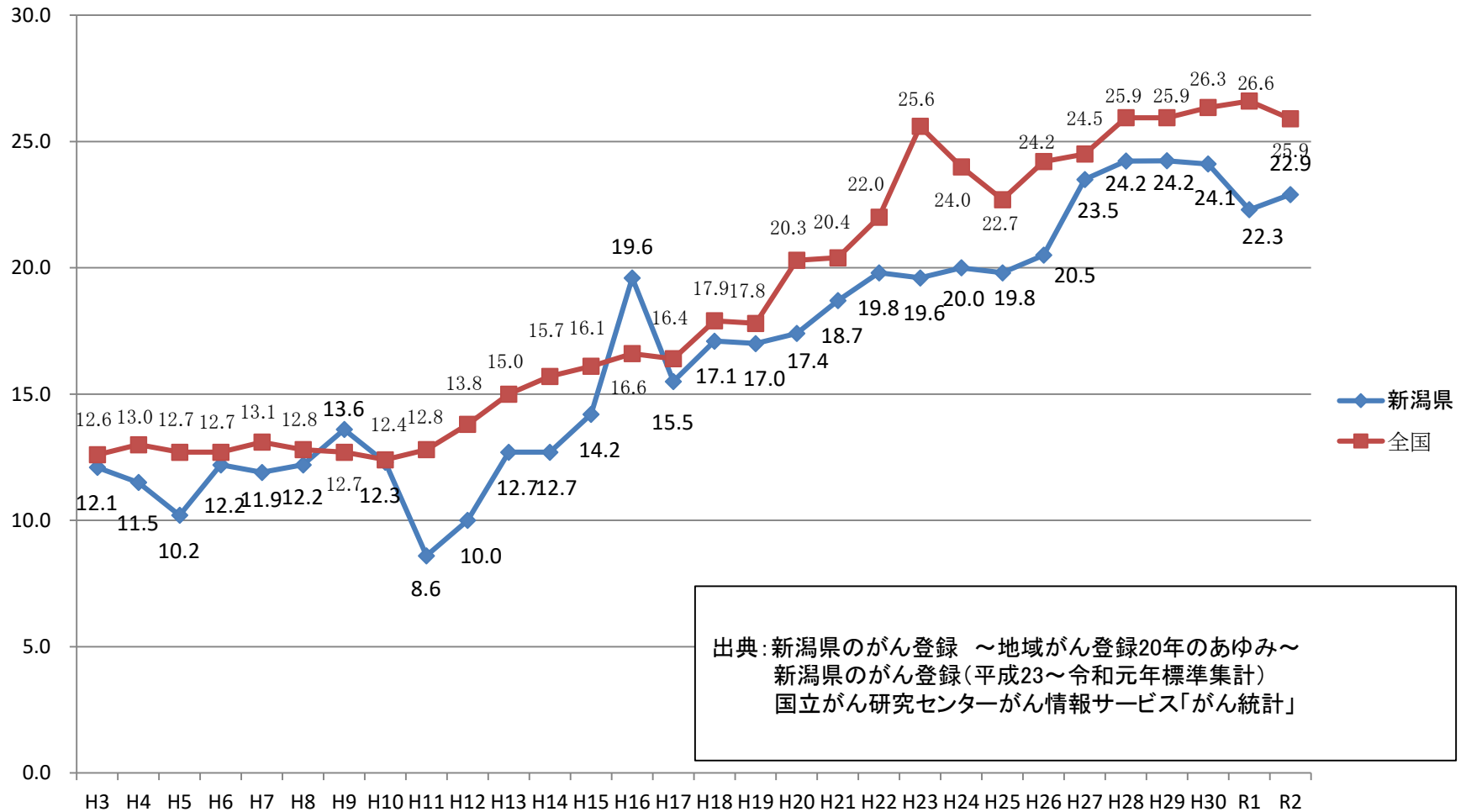
【乳】年齢調整罹患率[人口10万対](女・世界人口で調整) [上皮内がん除く]



- ・新潟県と全国で罹患率に大きな差は見られない。
- ・新潟県と全国共に、年々増加する傾向にある。

5大がん部位別年齢調整罹患率の推移：全国との比較

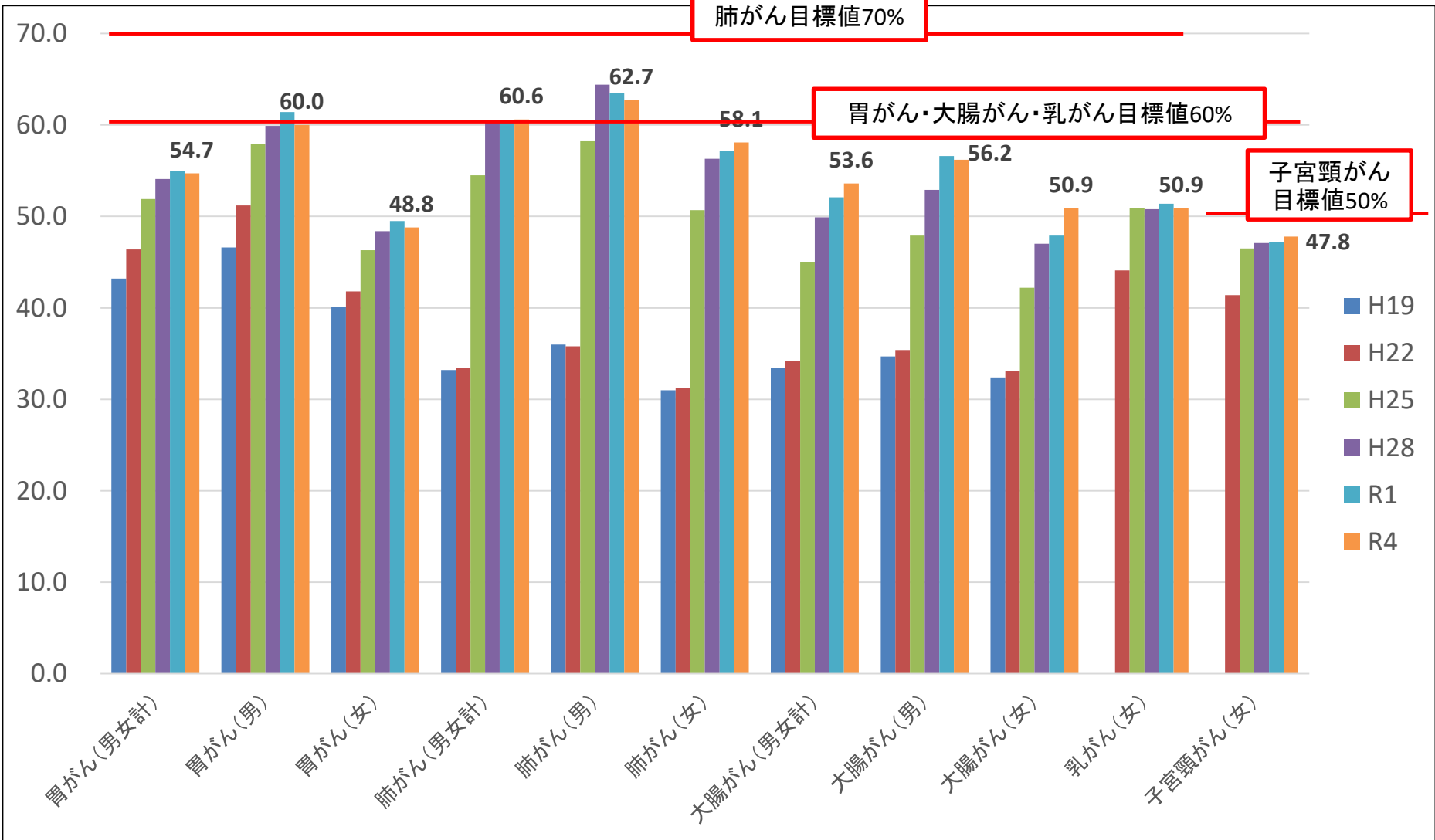
【子宮】年齢調整罹患率[人口10万対](女・世界人口で調整)[上皮内がん除く]



・新潟県と全国共に、年々増加する傾向にある。

がん検診受診率の推移

【国民生活基礎調査による新潟県のがん検診受診率(69歳以下)の推移】



・肺がん、大腸がん、子宮頸がんは微増。

- ※1 胃、肺、大腸、乳は40～69歳、子宮頸は20歳～69歳の受診率
- ※2 健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。
集計において入院者は除かれている。
- ※3 乳・子宮頸は2年に1回の受診

がん検診受診率全国順位(トップ10)

【R4国民生活基礎調査によるがん検診受診率(69歳以下)】

【胃】 全国値:41.9%

順位	都道府県名	受診率
1位	山形県	63.5
2位	新潟県	54.7
3位	宮城県	52.1
4位	山梨県	49.2
5位	福島県	48.8
6位	長野県	47.9
7位	岡山県	47.7
8位	富山県	47.6
9位	佐賀県	47.1
10位	熊本県	46.6

【肺】 全国値:49.7%

順位	都道府県名	受診率
1位	山形県	69.0
2位	山梨県	62.9
3位	新潟県	60.6
4位	宮城県	60.0
5位	岩手県	59.0
6位	富山県	58.1
7位	岡山県	57.7
8位	長野県	57.1
9位	高知県	56.5
10位	鳥取県	56.3

- ※1 胃、肺、大腸、乳は40～69歳、子宮は20歳～69歳の受診率
 ※2 健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。集計において入院者は除かれている。
 ※3 乳・子宮頸は2年に1回の受診
 ※4 受診率が高いほど上位

【大腸】 全国値:45.9%

順位	都道府県名	受診率
1位	山形県	64.7
2位	山梨県	55.4
3位	宮城県	55.2
4位	新潟県	53.6
5位	岩手県	52.9
6位	長野県	52.3
7位	富山県	52.1
8位	島根県	51.2
9位	青森県	51.1
10位	福島県	50.5

【子宮頸】 全国値:43.6%

順位	都道府県名	受診率
1位	山形県	57.5
2位	宮城県	52.1
3位	山梨県	50.2
4位	岡山県	49.4
5位	東京都	49.2
6位	大分県	49.2
7位	香川県	48.8
8位	長野県	48.0
9位	新潟県	47.8
10位	富山県	47.7

【乳】 全国値:47.4%

順位	都道府県名	受診率
1位	山形県	61.7
2位	山梨県	60.1
3位	宮城県	58.0
4位	東京都	55.0
5位	千葉県	55.0
6位	長野県	52.8
7位	岡山県	52.7
8位	大分県	52.6
9位	富山県	52.5
10位	香川県	52.2
11位	熊本県	51.4
12位	三重県	51.2
13位	新潟県	50.9

・新潟県順位:胃がん・2位 肺がん・3位 大腸がん・4位 乳がん・9位 子宮頸がん・13位
 ・5がんのうち、4つのがんで全国トップ10以内に入っており、本県の検診受診率は全国的に見ても高い水準にある。

部位別年齢階級別受診率

【R4国民生活基礎調査による新潟県のがん検診受診率(69歳以下)】

- ※1 胃、肺、大腸、乳は40～69歳、子宮頸は20歳～69歳の受診率
 ※2 健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。
 集計において入院者は除かれている。
 ※3 乳・子宮頸は2年に1回の受診

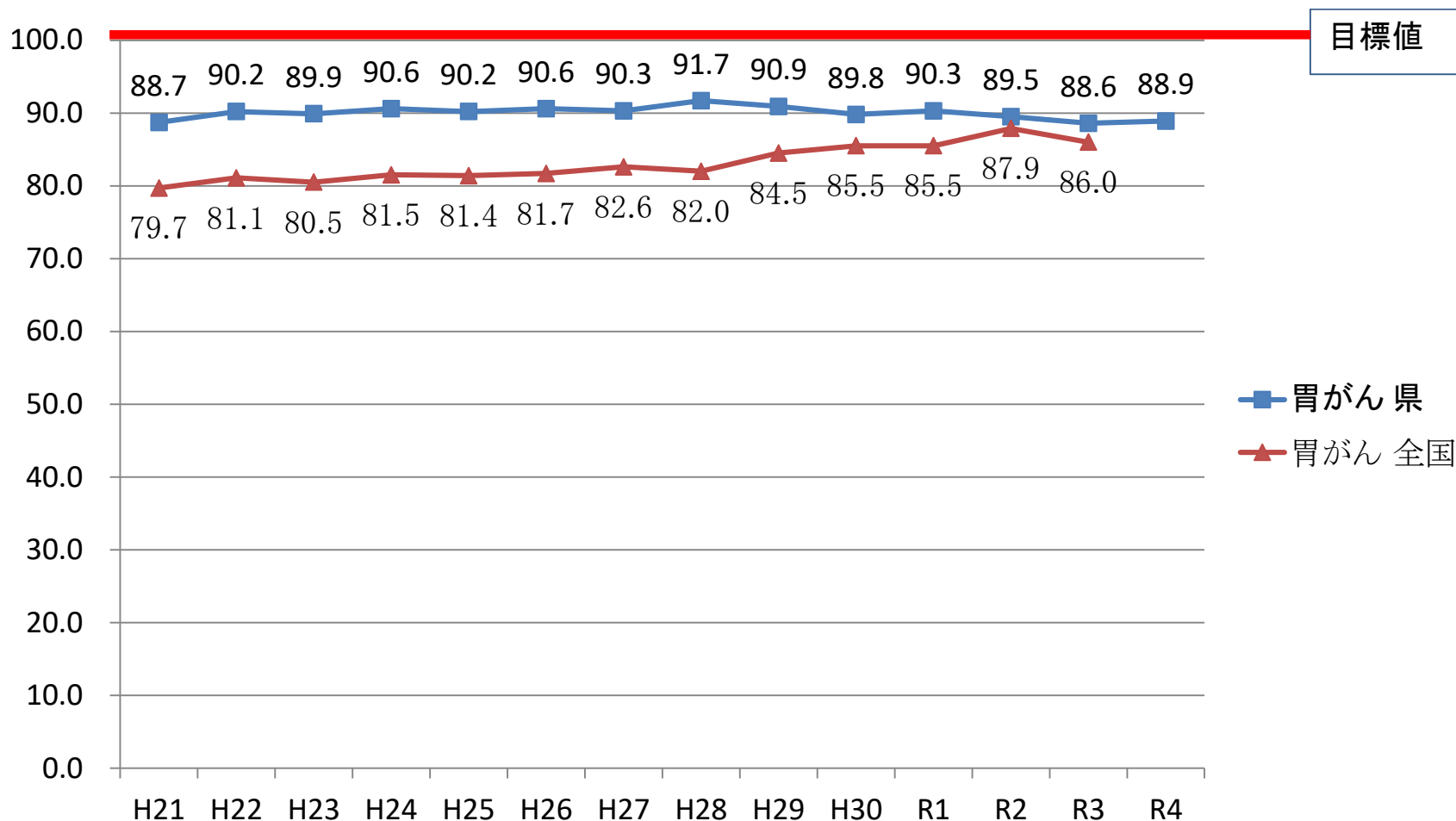
単位: %

年齢階級	胃がん			肺がん			大腸がん			乳がん (女)	子宮頸がん (女)
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
20～24歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27.6
25～29歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36.8
30～34歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55.0
35～39歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	52.9
40～44歳	55.6	45.0	50.4	54.0	53.3	53.7	52.4	46.7	48.8	51.7	58.3
45～49歳	62.0	51.3	57.6	64.6	61.3	63.3	55.7	55.0	55.7	53.8	56.3
50～54歳	63.9	50.0	56.8	66.7	59.5	63.7	59.7	52.7	56.2	55.4	51.4
55～59歳	60.0	53.1	56.8	62.7	62.5	61.9	58.7	53.1	56.1	53.1	48.4
60～64歳	66.7	50.0	58.7	66.7	58.3	62.9	58.3	51.4	55.2	50.0	41.7
65～69歳	52.4	43.9	48.2	60.7	53.7	57.2	52.4	46.3	49.4	42.7	39.0
40(20)～69歳	60.0	48.8	54.7	62.7	58.1	60.6	56.2	50.9	53.6	50.9	47.8

- ・胃がん、肺がん、大腸がんにおいて、全ての年齢階級で女性より男性の方が受診率が高い。
- ・胃がん、肺がん、大腸がんでは、検診の入り口年齢である40歳を含む40～44歳の働く世代と65～69歳の高齢者の受診率が低い。
- ・乳がんについては、40歳代、50歳代の働く世代の受診率が50%を超えている反面、60～69歳の高齢者の受診率が低い。
- ・子宮頸がんについては、20歳代の若年世代の受診率が著しく低い。

精密検査受診率の推移：全国との比較

【胃がん】

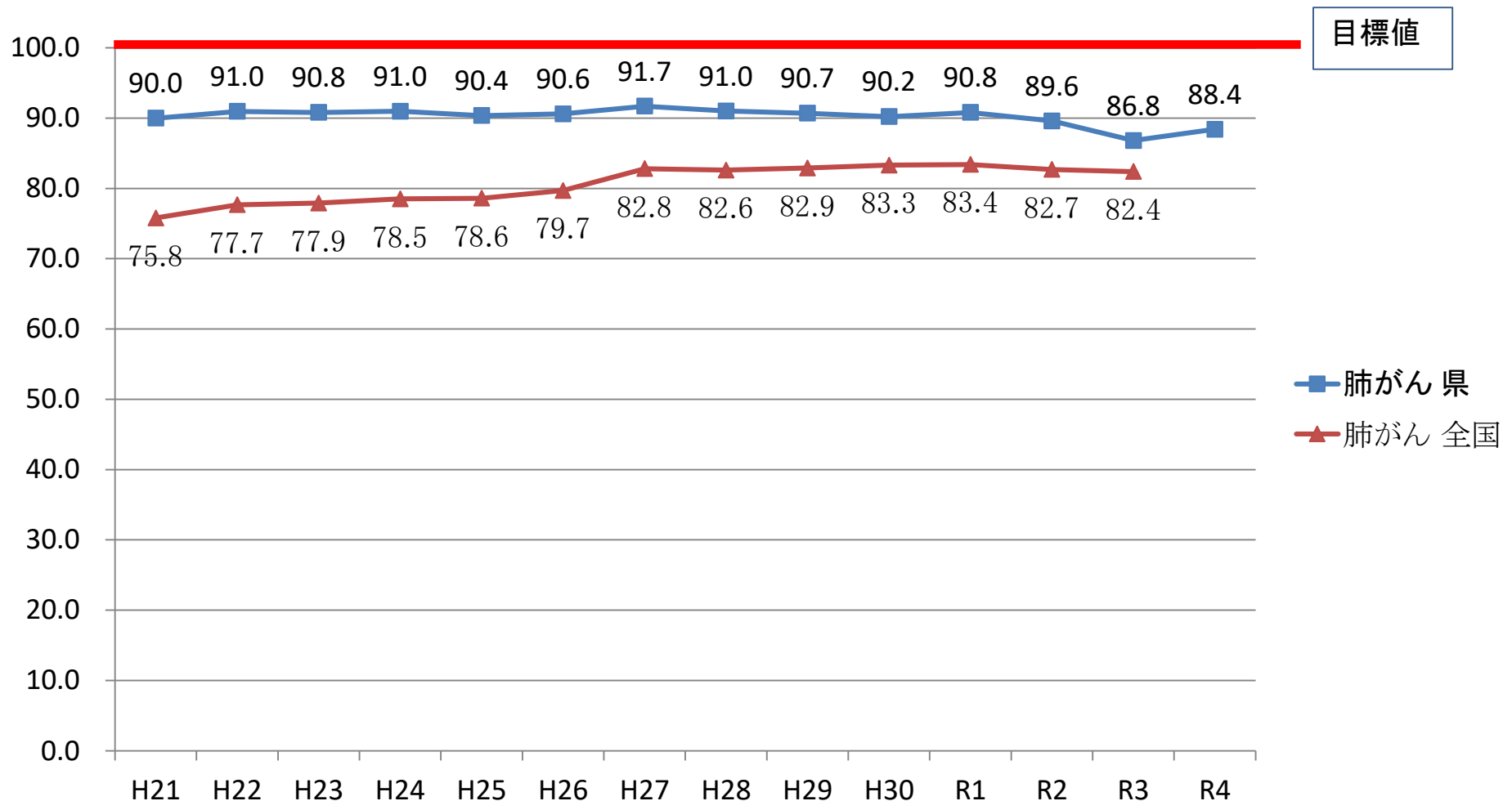


出典：がん検診等結果報告(新潟県)
地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- ・県は90%前後、全国は80%台で推移
- ・県の受診率は全国よりも高い値で推移している。

精密検査受診率の推移：全国との比較

【肺がん】

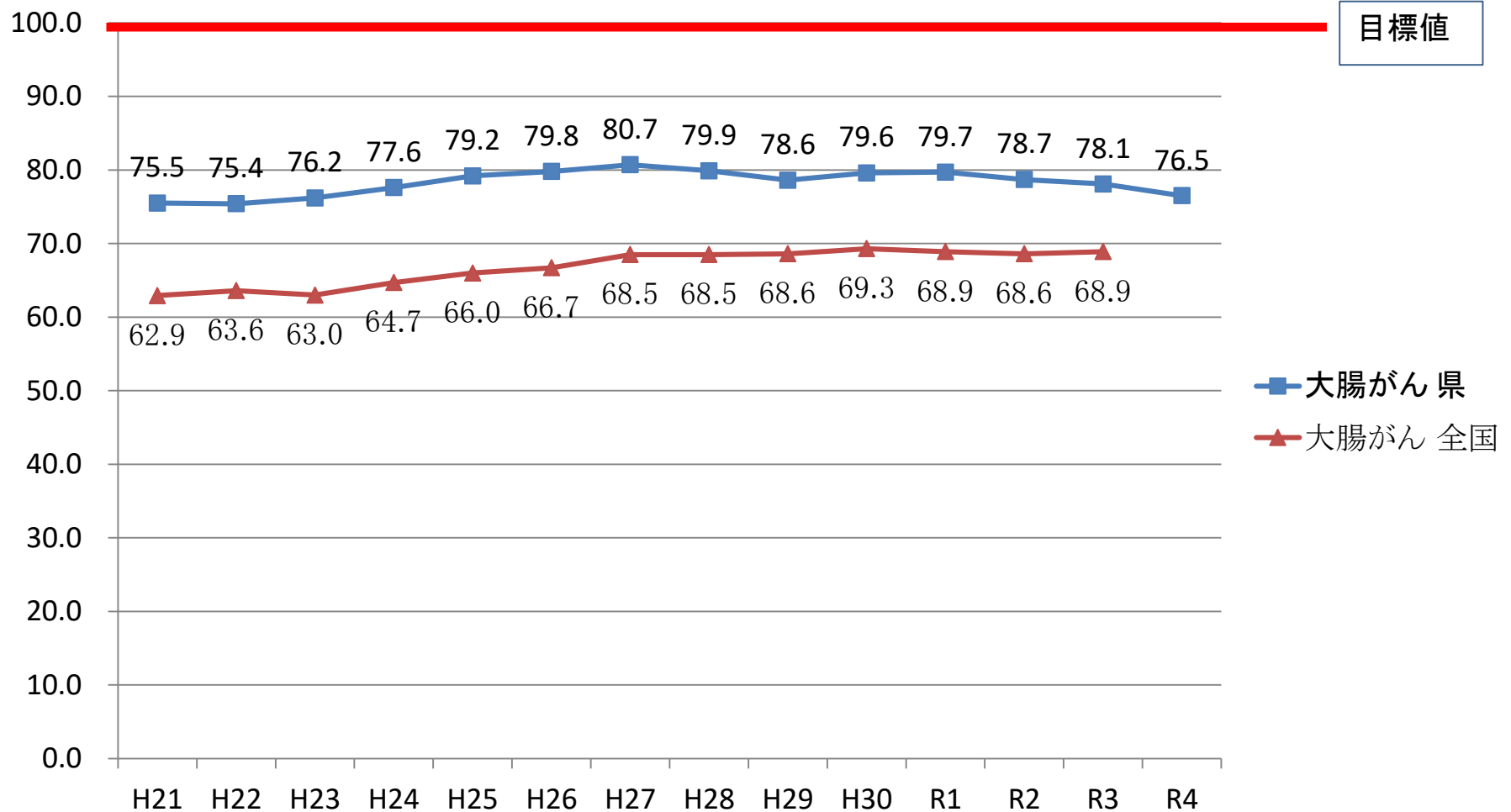


出典：がん検診等結果報告(新潟県)
地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- ・県は90%前後、全国は70%後半～80%前半で推移。
- ・県の受診率は全国よりも高い値で推移している。

精密検査受診率の推移：全国との比較

【大腸がん】

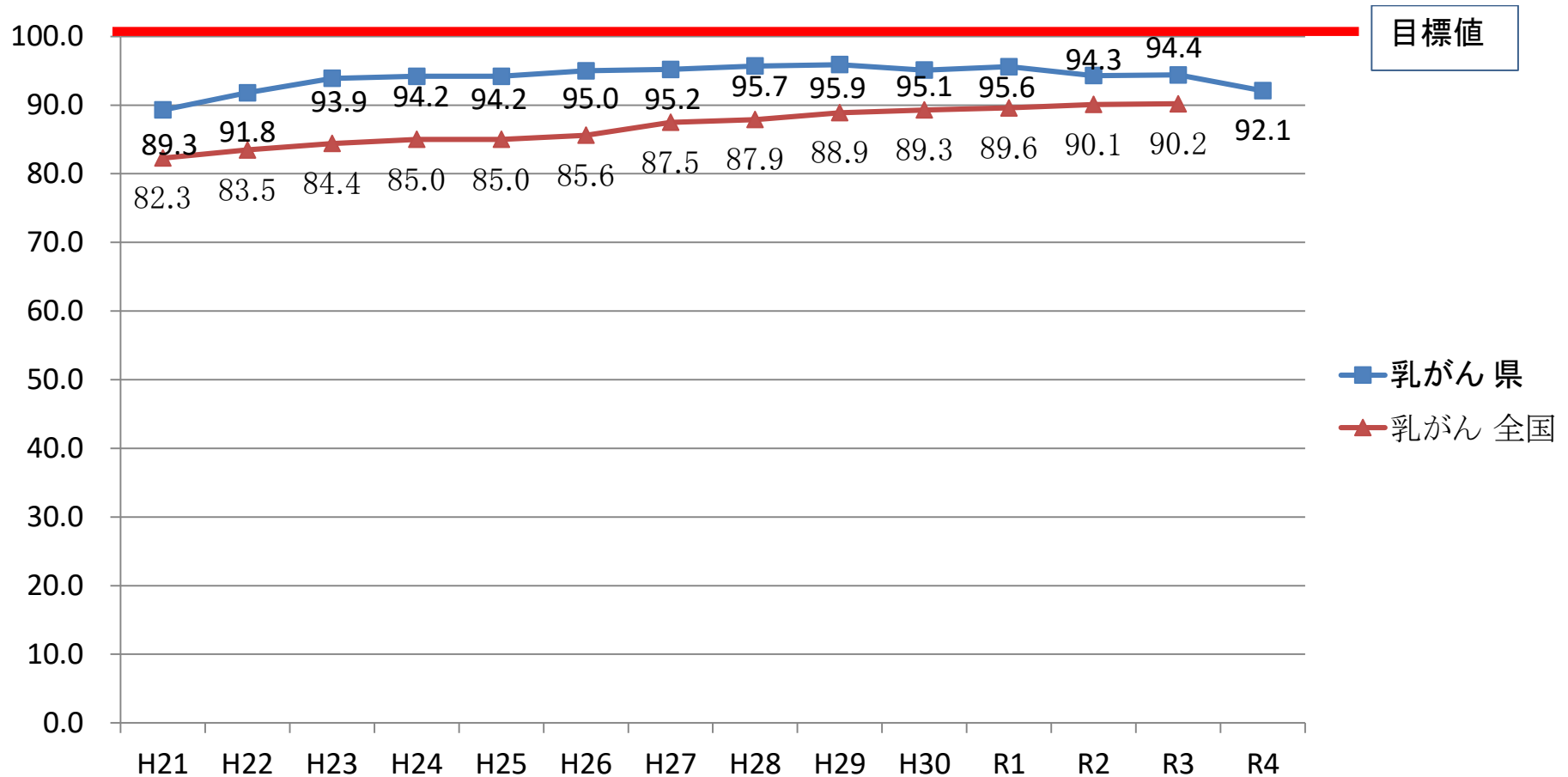


出典：がん検診等結果報告(新潟県)
地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- ・県は80%弱、全国は60%後半で推移
- ・県の受診率は全国よりも高い値で推移している。

精密検査受診率の推移：全国との比較

【乳がん】

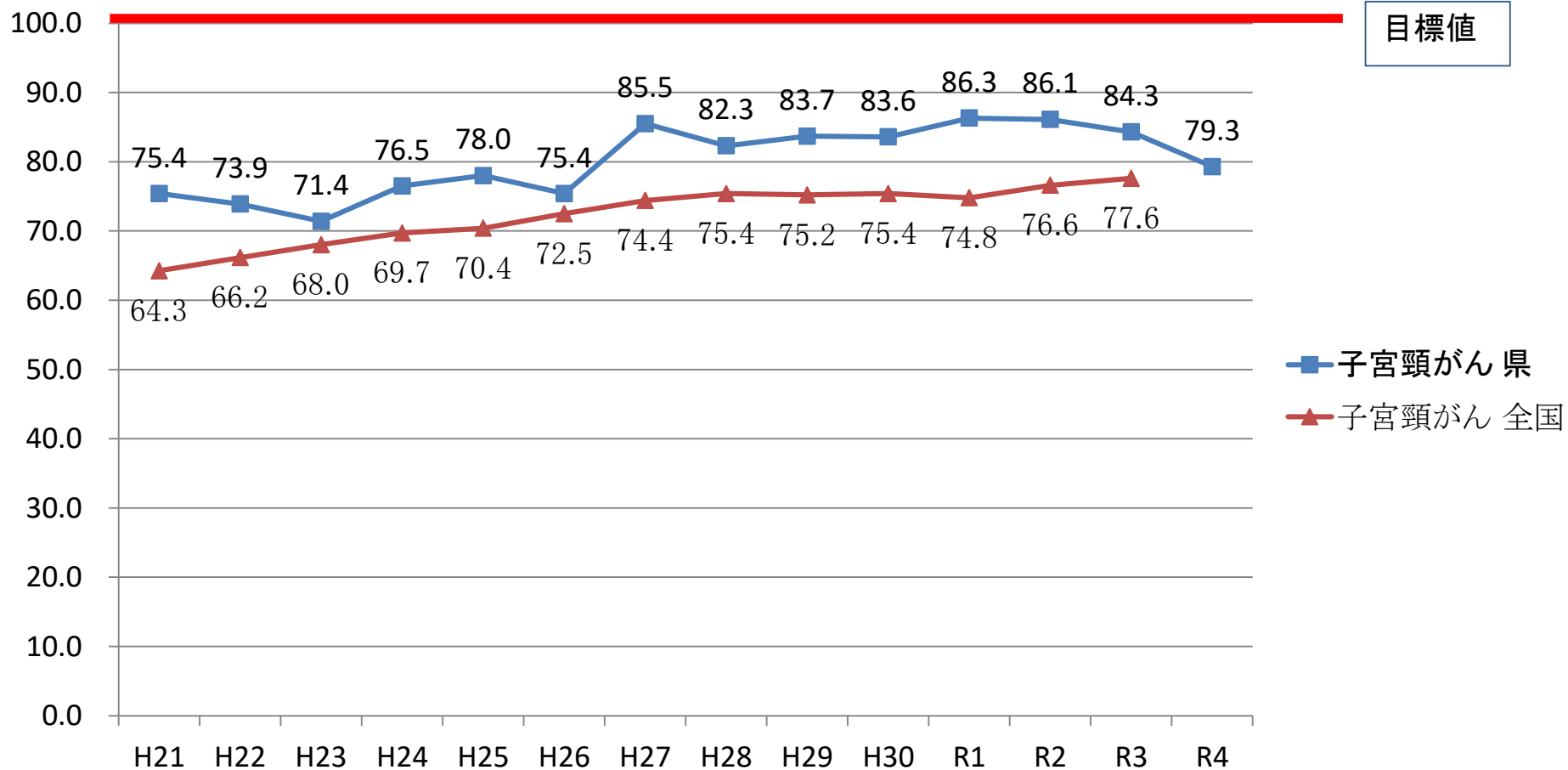


出典：がん検診等結果報告（新潟県）
地域保健・健康増進事業報告（厚生労働省）

- ・県は90%台、全国は80%後半～90%前半で推移。
- ・県の受診率は全国よりも高い値で推移している。

精密検査受診率の推移：全国との比較

【子宮頸がん】

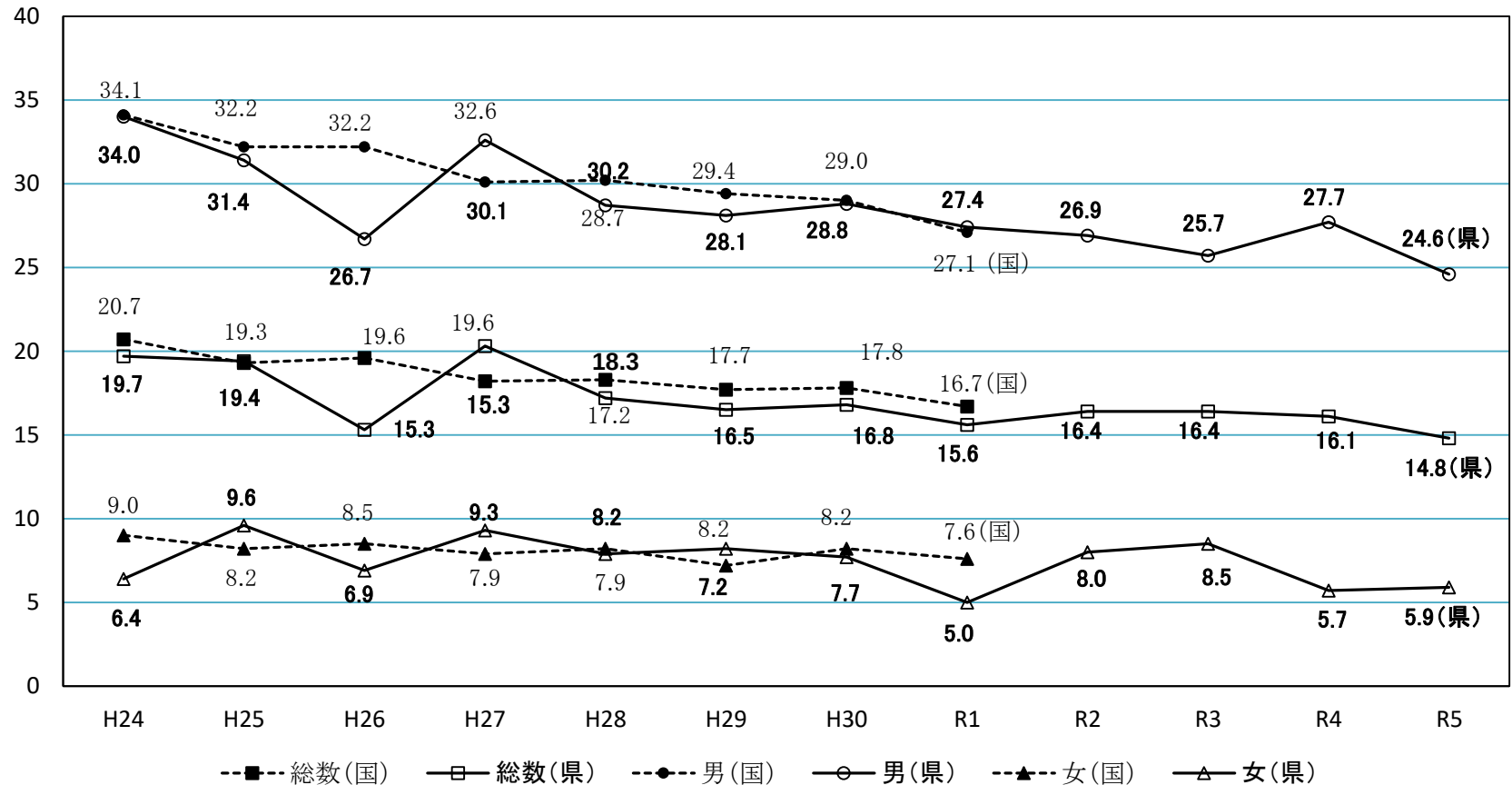


出典：がん検診等結果報告（新潟県）
地域保健・健康増進事業報告（厚生労働省）

- ・県は80%前後、全国は70%前後で推移。
- ・県の受診率は全国よりも高い値で推移している。

成人喫煙率の推移：全国との比較

【現在習慣的に喫煙している者の割合】



※国民健康・栄養調査は新型コロナウイルス感染症の影響により中止(令和2～3年)及び結果公表前(令和4～5年)

※県民健康・栄養実態調査(令和5年)は暫定値

出典：県民健康・栄養実態調査(新潟県) 国民健康・栄養調査(厚生労働省)

【新潟県の現状】

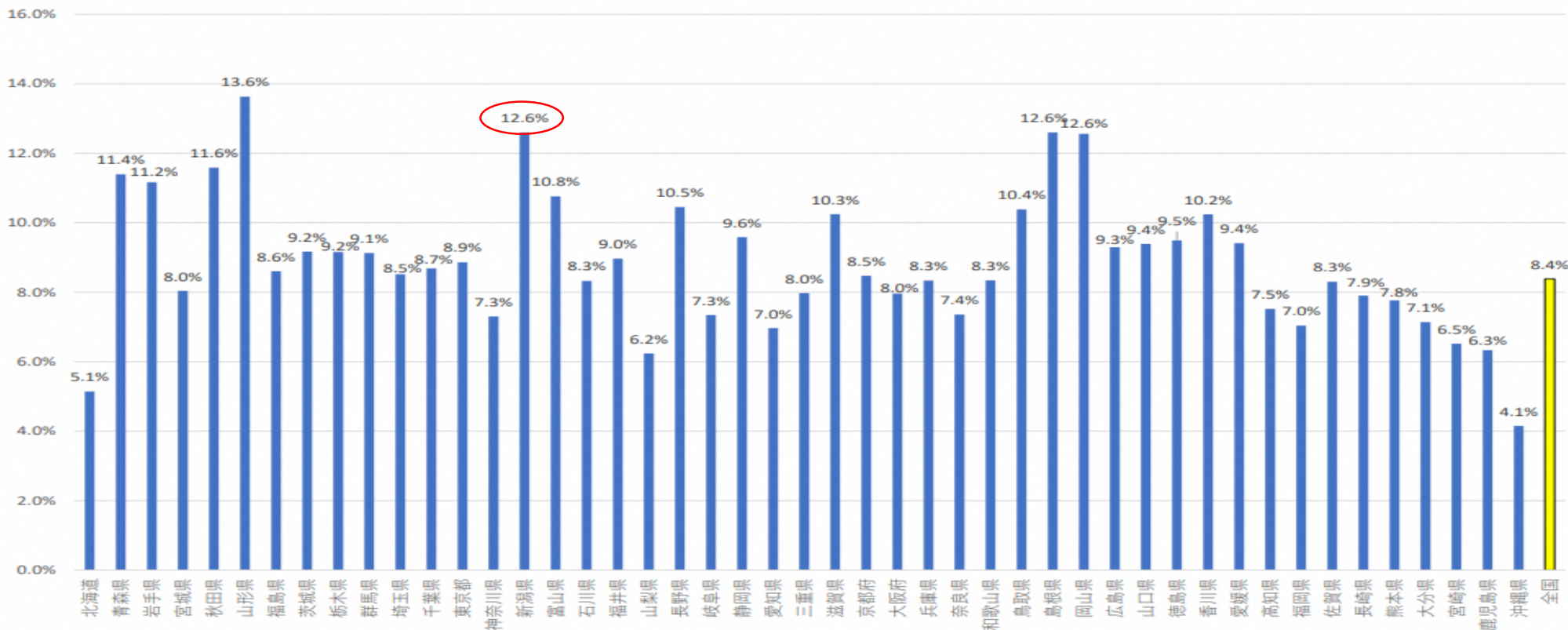
・喫煙率(総数)は減少傾向にあるが、目標値(13%)には届いていない状況。

令和4年度都道府県別の接種率（定期接種）

出典：HPVワクチンに係る自治体説明会
参考資料
令和6年5月30日
厚生労働省 健康・生活衛生局
感染症対策部 予防接種課

令和4年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。

令和4年度・HPVワクチン・都道府県別接種率（定期接種）



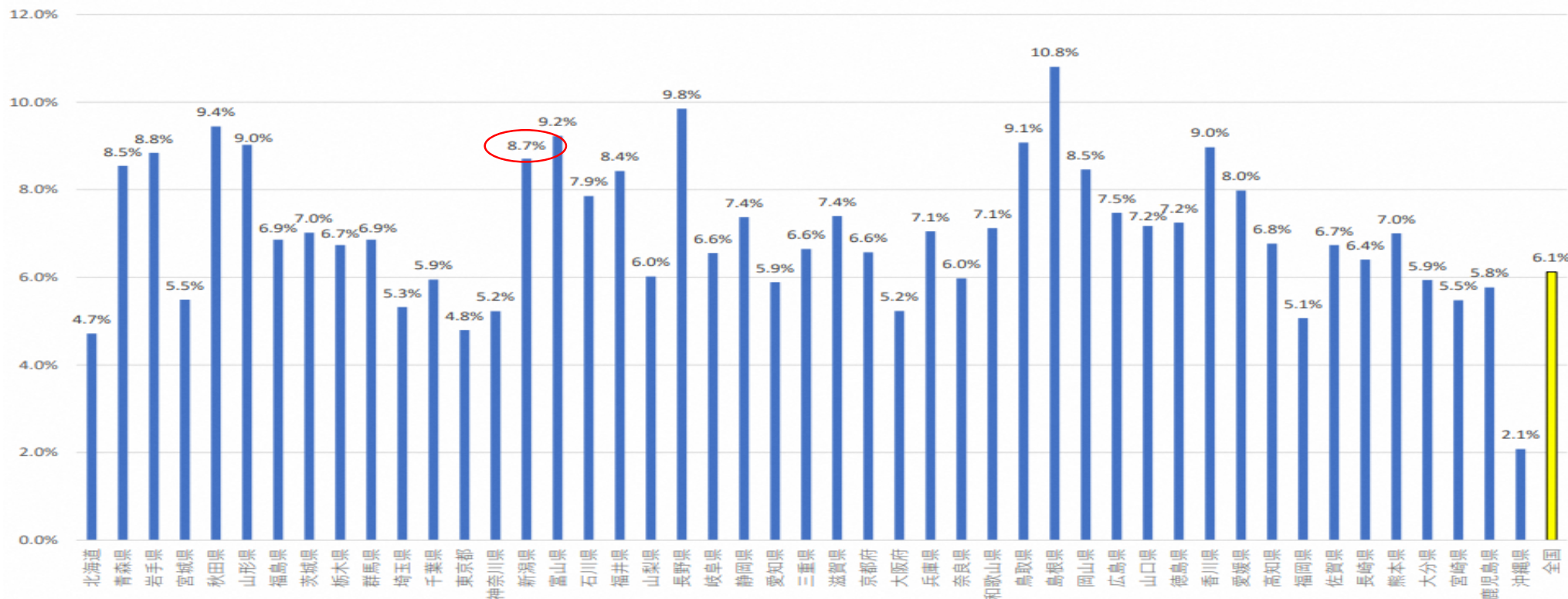
【留意事項】

- ・分子は、令和4年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別 接種回数（表番号67）
- ・分母は、総務省統計局が公表している令和4年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学6年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学6年から16歳になる年度までを合算した。
- ・本資料における「接種率」は、令和4年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

令和4年度都道府県別の接種率（キャッチアップ接種）

令和4年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。

令和4年度・HPVワクチン・都道府県別接種率（キャッチアップ）



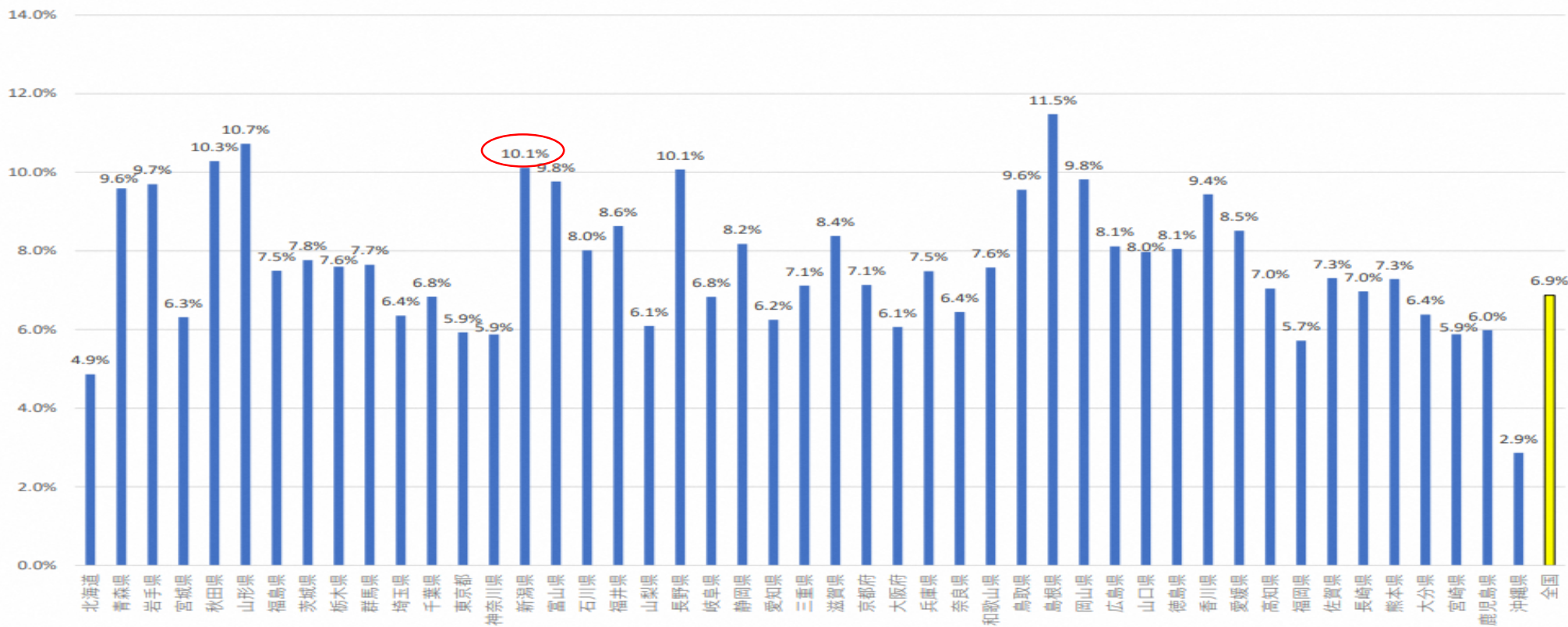
【留意事項】

- ・分子は、令和4年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別 接種回数（表番号67）
- ・分母は、総務省統計局が公表している令和4年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学6年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、17歳になる年度から25歳になる年度までを合算した。
- ・本資料における「接種率」は、令和4年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

令和4年度都道府県別の接種率（定期接種・キャッチアップ接種合計）

令和4年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。

令和4年度・HPVワクチン・都道府県別接種率（全体）

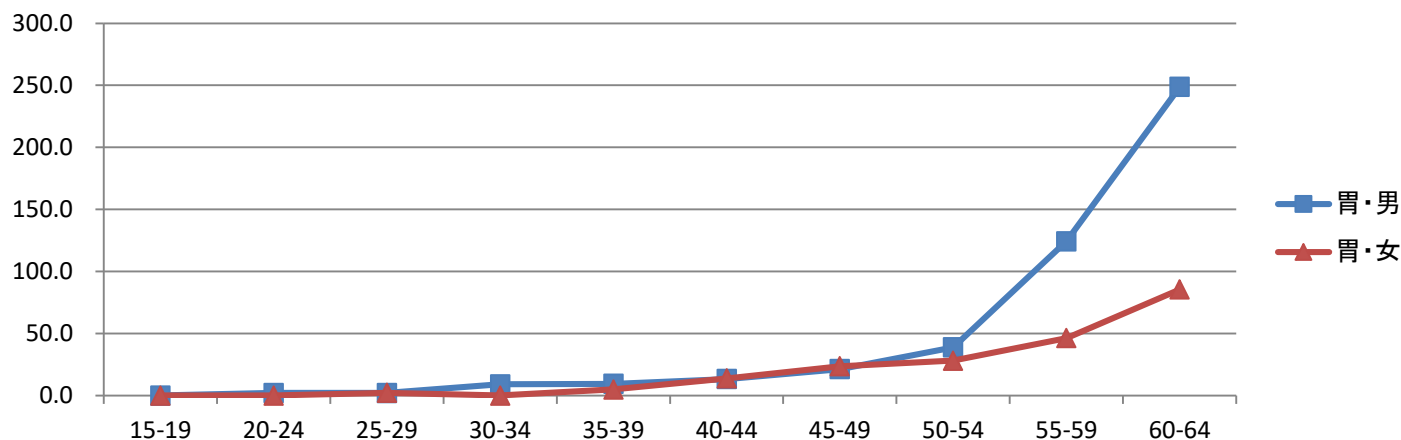


【留意事項】

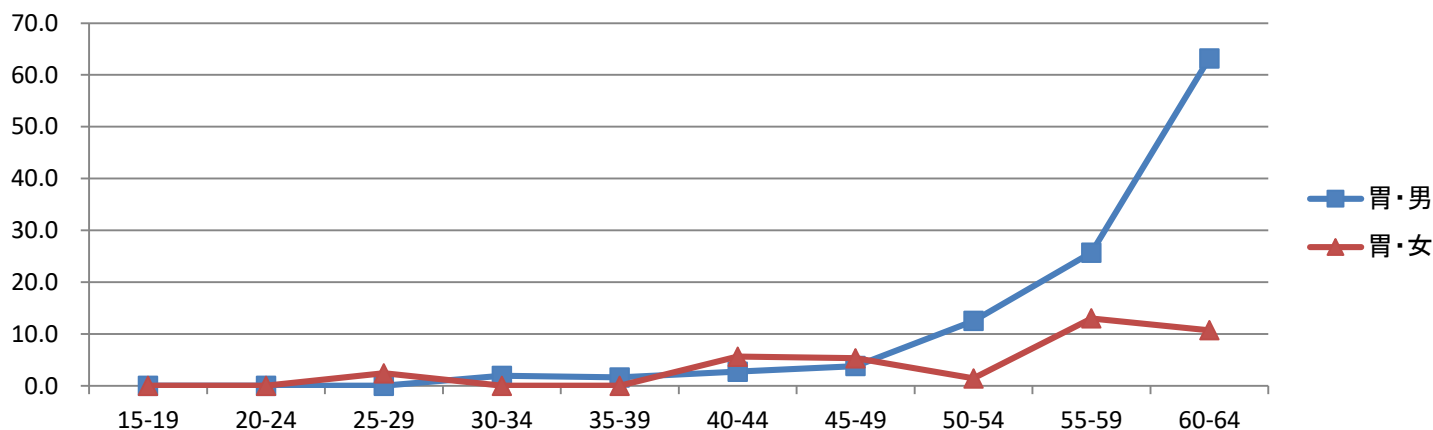
- ・分子は、令和4年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別 接種回数（表番号67）
- ・分母は、総務省統計局が公表している令和4年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学6年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学6年から25歳になる年までを合算した。
- ・本資料における「接種率」は、令和4年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率 (人口10万対、上皮内がん除く)

【胃がん罹患率】



【胃がん死亡率】



出典:新潟県のがん登録 令和元年標準集計

【罹患率】

・男女ともに40歳代から増加する傾向にある。特に男性は、50歳代後半以降に著しく増加し、60歳代前半になると、女性の約2.9倍となっている。

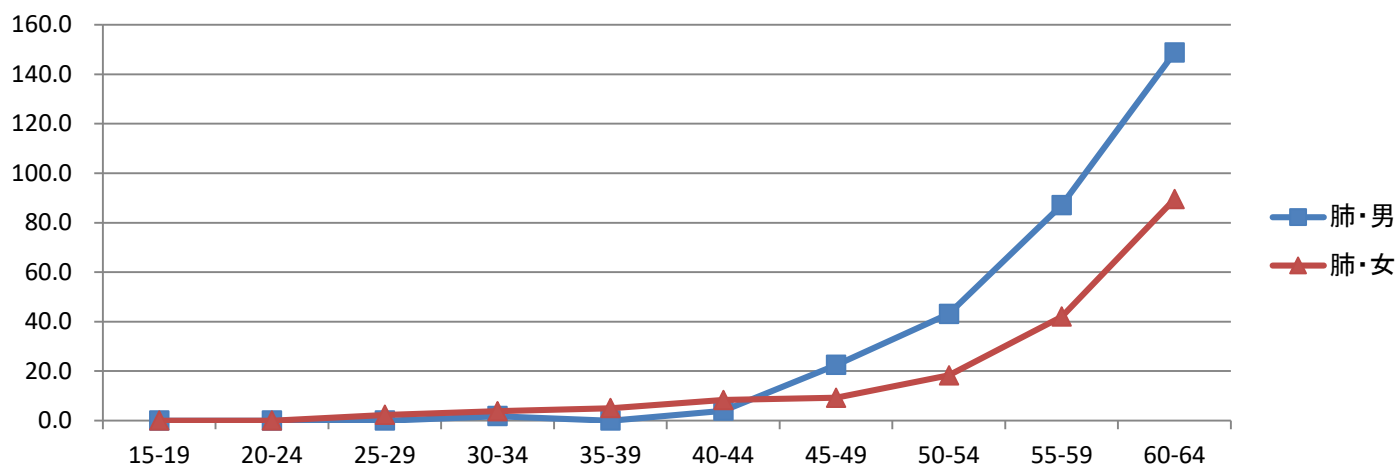
【死亡率】

・男性は50歳代前半から大幅に増加する一方、女性は40歳代前半から増加しており、男女差が見られる。

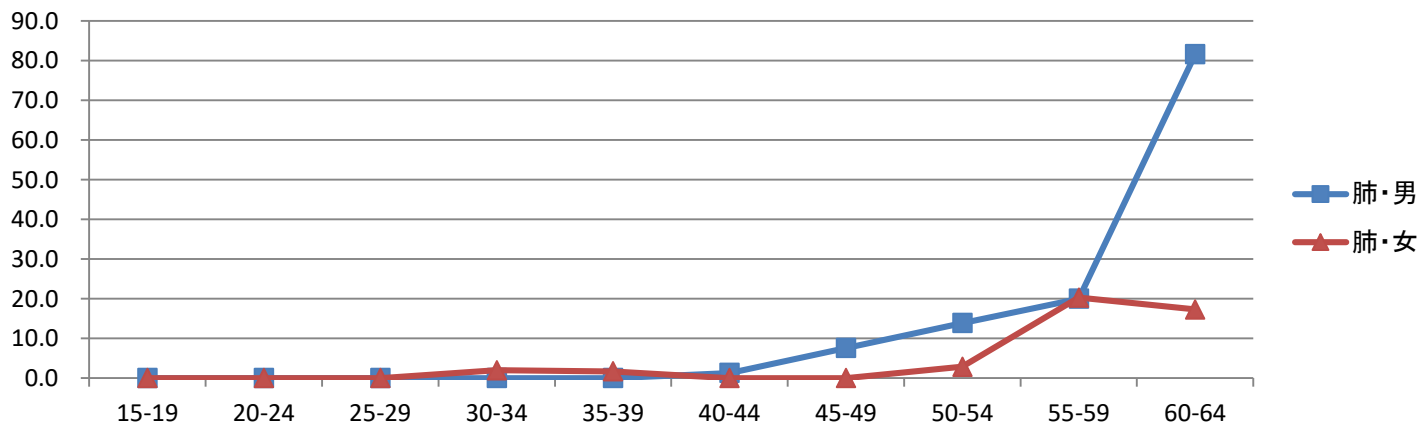
・50歳代以降の男性の増加は著しく、60歳代前半になると、女性の約5.9倍となっている。

生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率 (人口10万対、上皮内がん含む)

【肺がん罹患率】



【肺がん死亡率】



出典:新潟県のがん登録 令和元年標準集計

【罹患率】

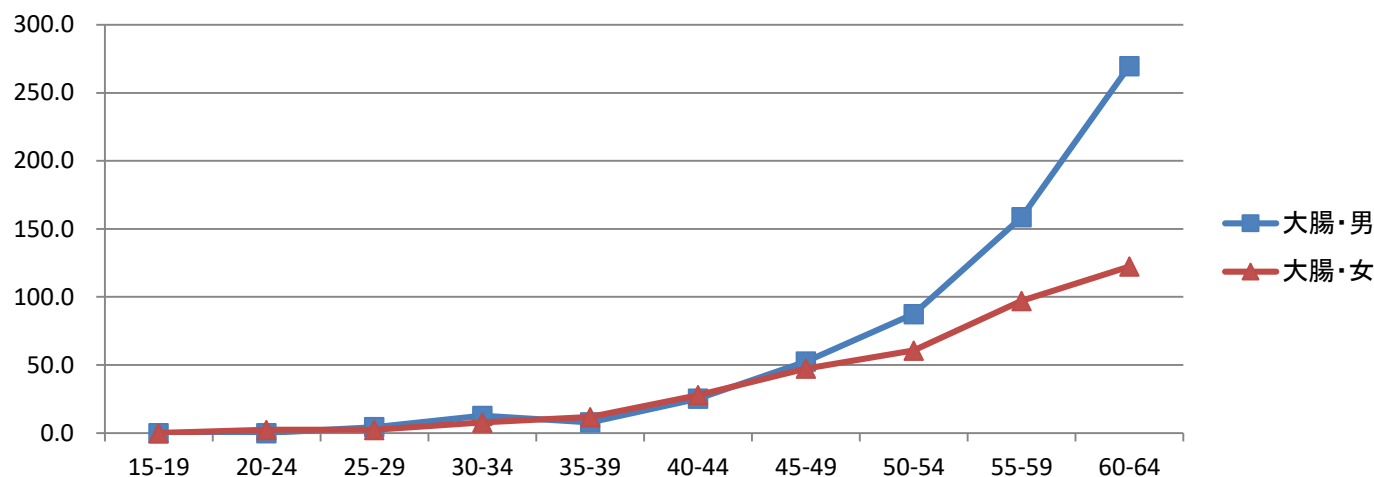
・40歳代前半までは男女差が殆ど無い状態で緩やかに増加する傾向にあるが、40歳代後半に男性の罹患率が増加すると男女差が生じ始め、60歳代前半では男性が女性の約1.7倍となっている。

【死亡率】

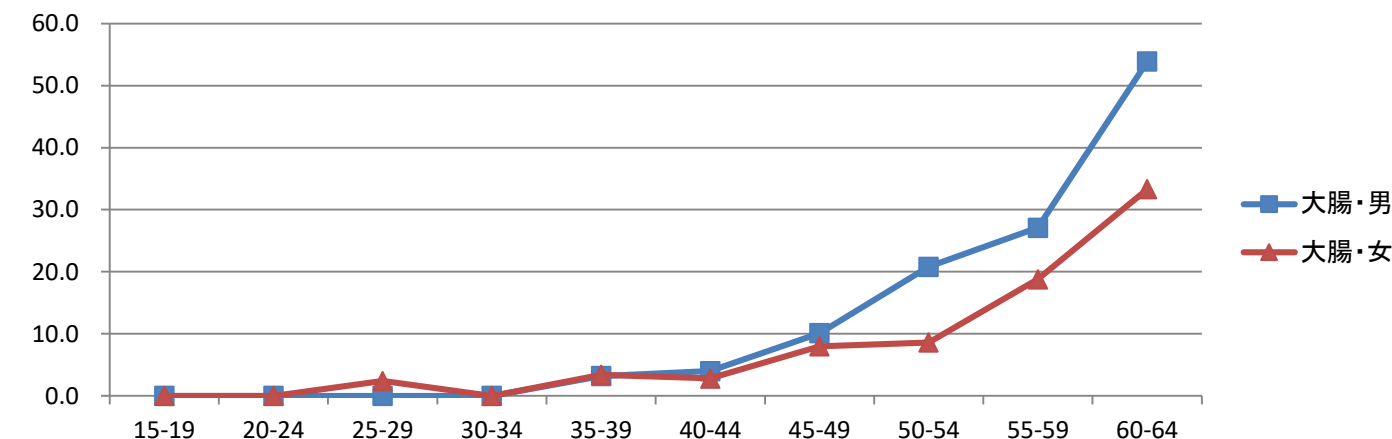
・40歳代前半までは男女差が殆ど無い状態で緩やかに増加する傾向にあるが、40歳代後半に男性の死亡率が増加すると男女差が生じ始め、60歳代前半では男性が女性の約4.7倍となっている。

生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率 (人口10万対、上皮内がん含む)

【大腸がん罹患率】



【大腸がん死亡率】



出典:新潟県のがん登録 令和元年標準集計

【罹患率】

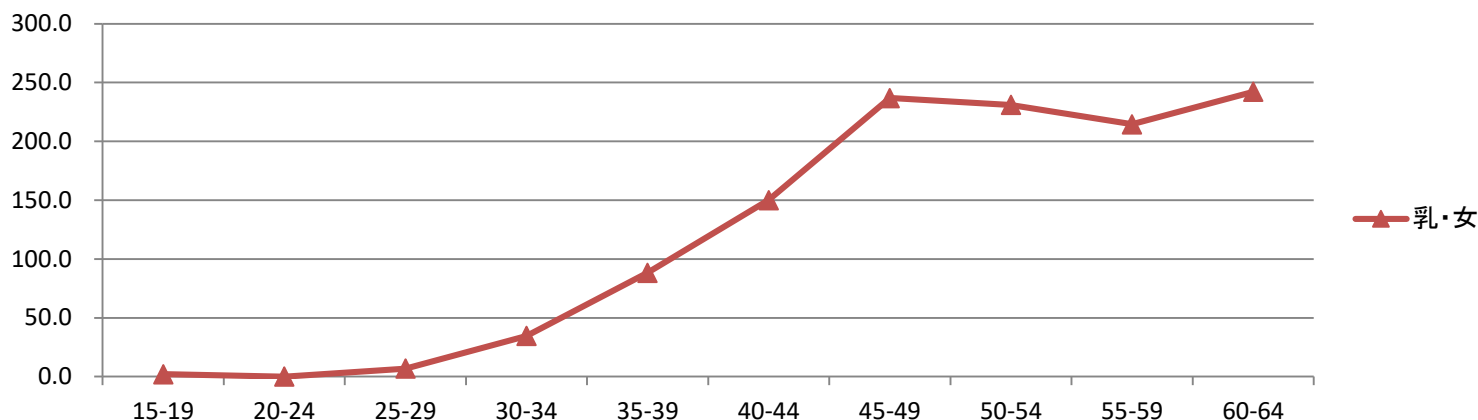
・男女とも40歳代から増加する傾向にあり、50歳代以降に大幅に増加。50歳代後半から男女差が大きくなり、60歳代前半では男性が女性の約2.2倍となっている。

【死亡率】

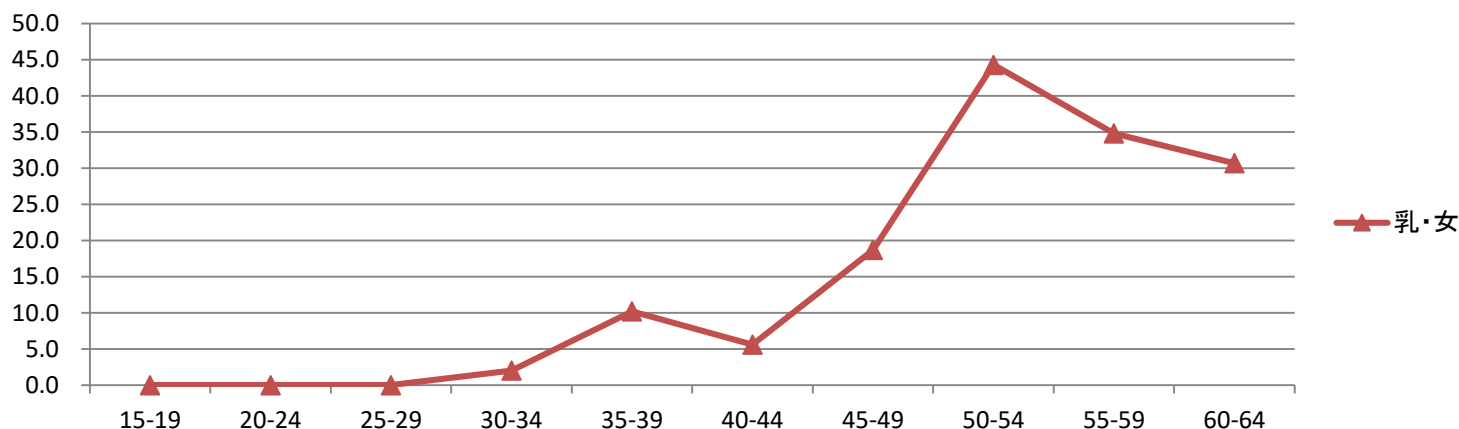
・40歳代までは男女差があまり見られないが、50歳代前半になり男性の死亡率が増加し始めると男女差が大きくなり、60歳代前半では男性が女性の約1.6倍となっている。

生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率 (人口10万対、上皮内がん含む)

【乳がん罹患率】



【乳がん死亡率】



出典:新潟県のがん登録 令和元年標準集計

【罹患率】

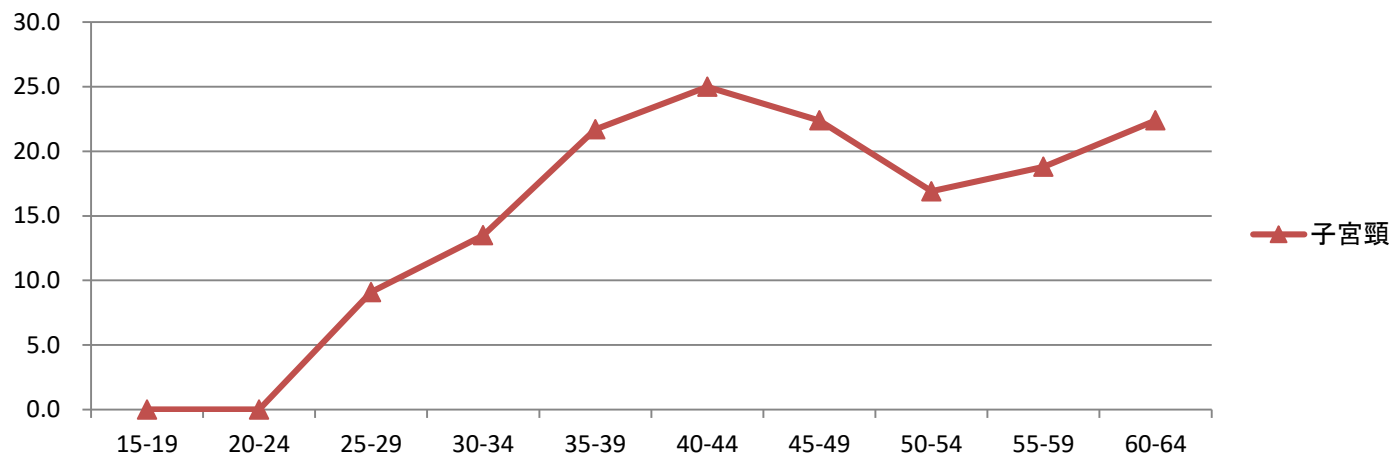
- ・30歳代前半から増加傾向を示し、30～40歳代で急激に増加。
- ・40歳代後半でピークを迎え、以後の年齢層では減少傾向にあるが、60歳代前半で再び増加している。

【死亡率】

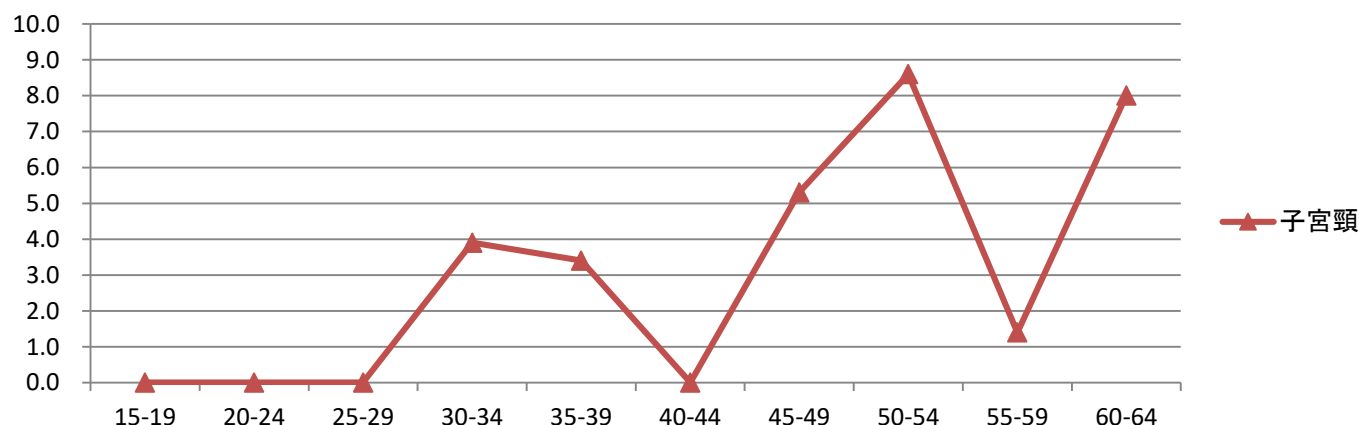
- ・30歳代後半から大幅に増加し、50歳代前半が最も死亡率が高くなっている。

生産年齢(15～64歳)における部位別・性別・年齢階級別罹患率・死亡率 (人口10万対、上皮内がん含む)

【子宮頸がん罹患率】



【子宮頸がん死亡率】



出典:新潟県のがん登録 令和元年標準集計

【罹患率】

- ・20歳代後半から急激に増加。
- ・40歳代前半でピークを迎え、以後の年齢層では一旦減少しているが、50歳代後半以降で再び増加している。

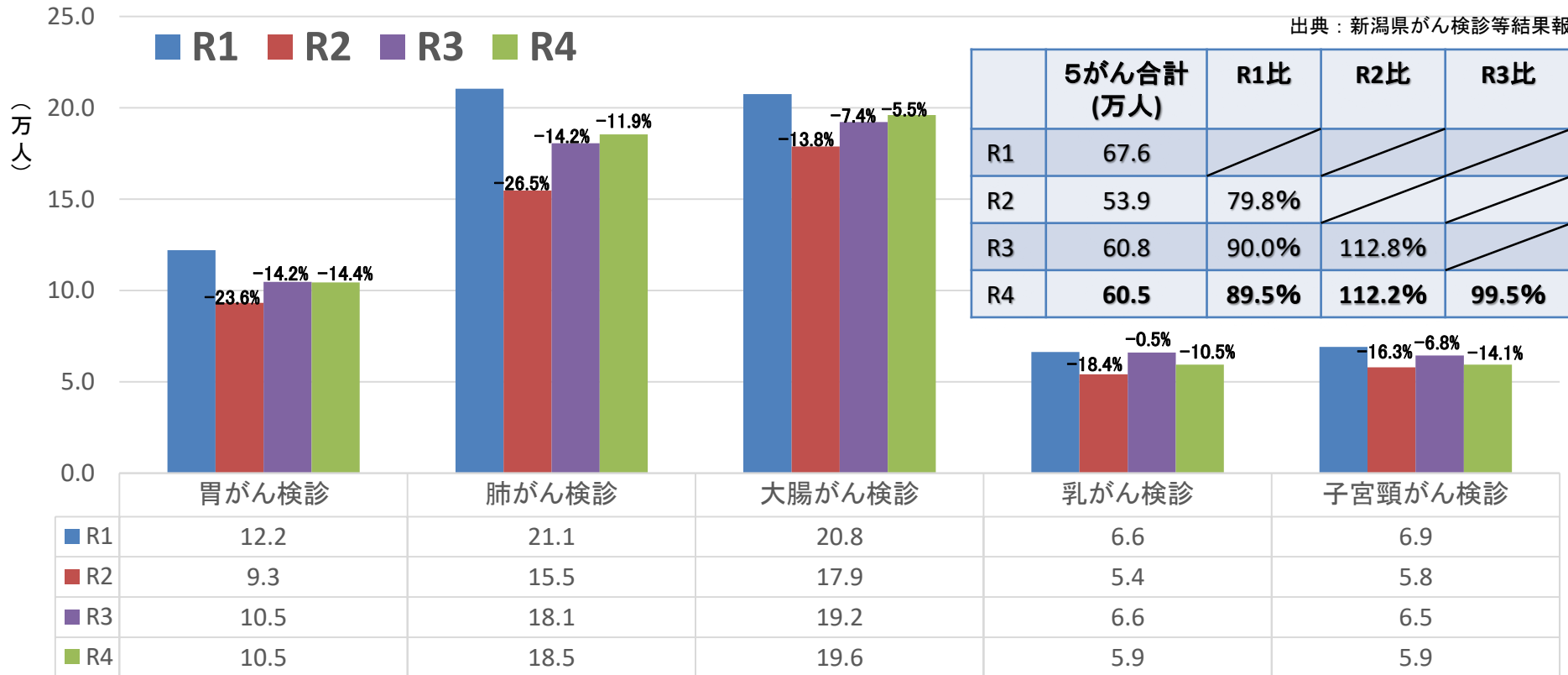
【死亡率】

- ・30歳代前半に増加し、各年代により死亡率に違いがみられるが、50歳代前半が最も高くなっている。

市町村がん検診受診者数の推移(新潟県)

(%は令和元年度を1として計算)

出典：新潟県がん検診等結果報



【令和4年度の受診者数について】

- 令和3年度と比較すると「99.5%」と、令和2年度からの回復以降ほぼ横ばいとなっている。
- しかし、令和元年度(新型コロナウイルス感染症流行前)と比較すると「89.5%」にとどまり、平時の受診者数までは回復していない状況。
- 特に胃がんと子宮頸がんにおいては、令和元年度からの減少率が他のがん検診よりも大きい。

働く世代等のがん検診受診率向上に向けた県の主な取組

これまでの取組(例)

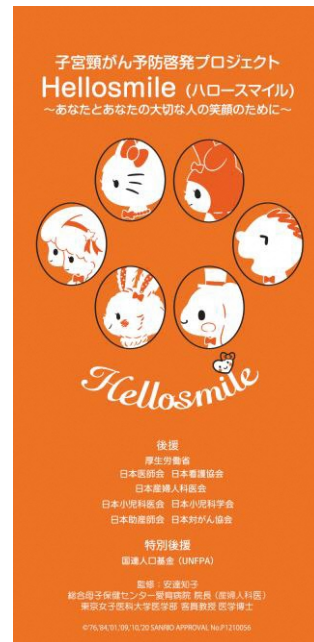
●働く世代へのがん対策事業

職場でがん検診を受診する機会のない方を市町村の検診につなげる取組



●高校生への普及啓発

県内の高校生に対して子宮頸がん予防リーフを配布



●事業主等への普及啓発

・各保険者等と協力し、がん征圧月間(9月)及びがん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン月間(10月)に、全県で一斉に検診受診を促す広報を実施

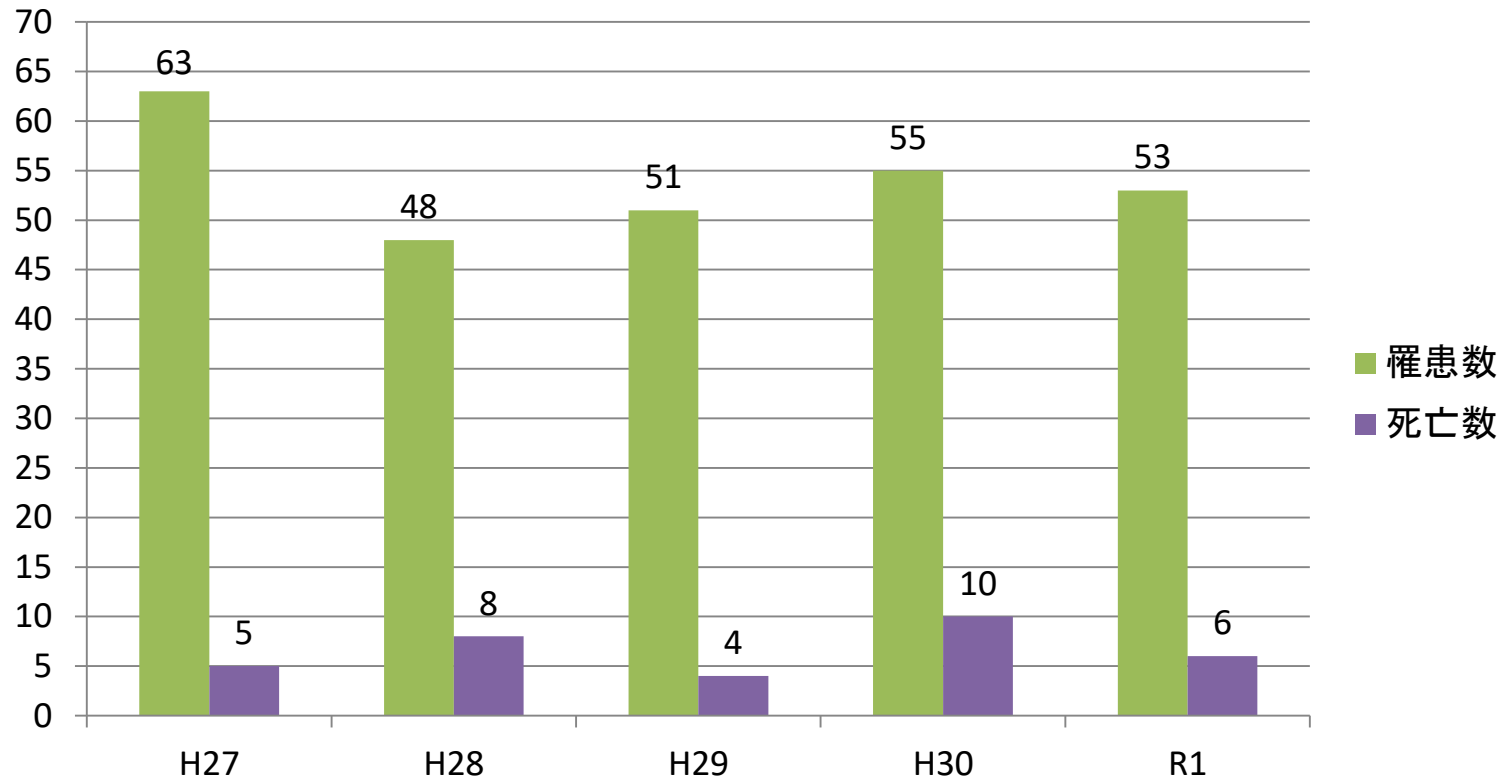
・Web広告(バナー広告、動画広告)の実施 等



●その他

- ・新聞社と共催で「がん対策セミナー」を開催し、新聞紙面で情報発信
- ・市町村及び検診機関の検診担当者との情報交換会の開催
- ・県と包括連携協定を結んでいるコンビニエンスストアでのチラシ配布
- ・市町村等の広報誌や雑誌などへの啓発記事の掲載
- ・健康立県公式Twitterでの啓発

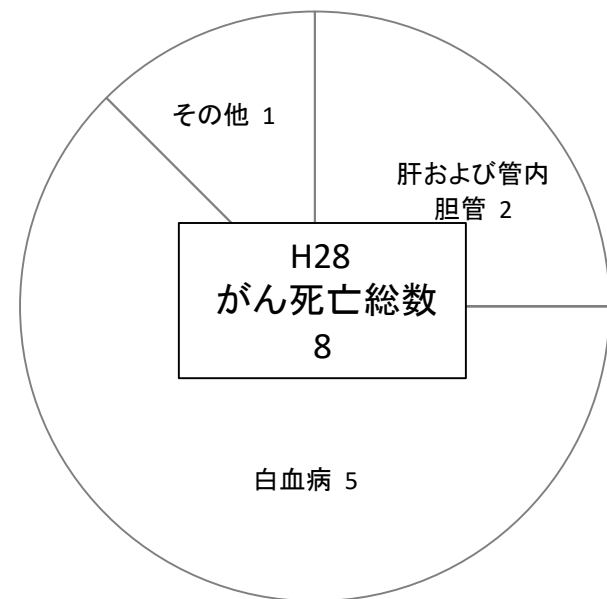
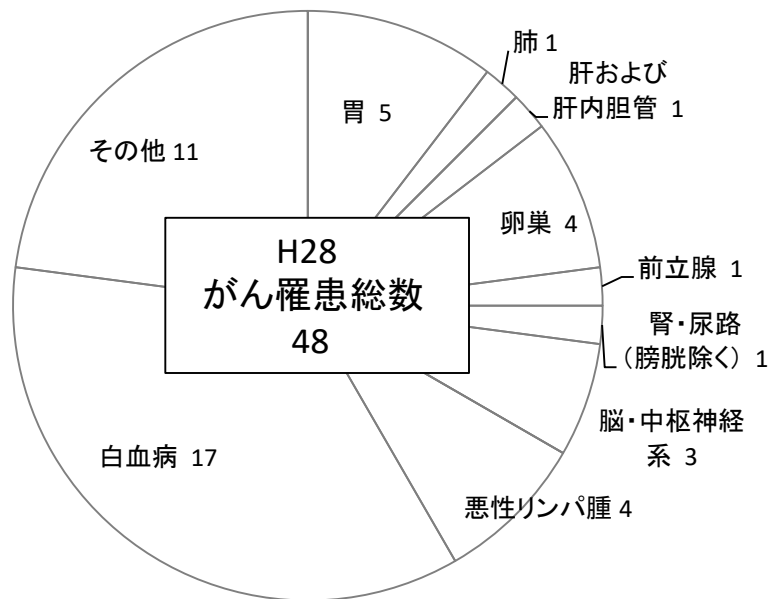
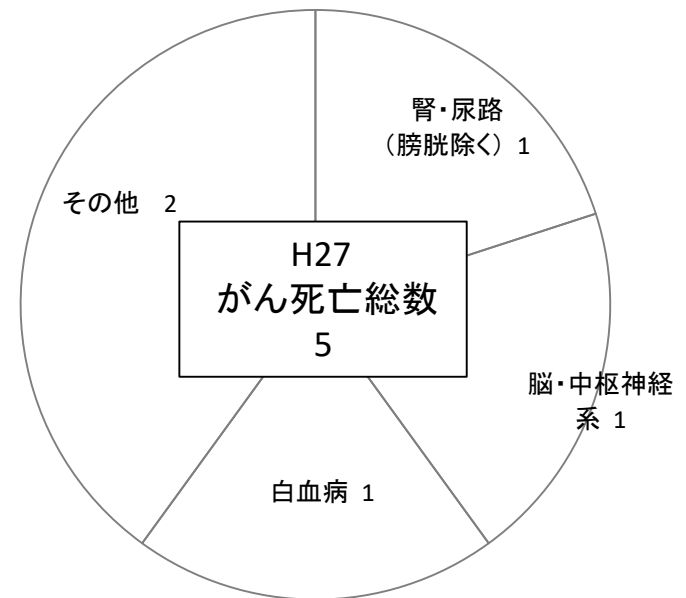
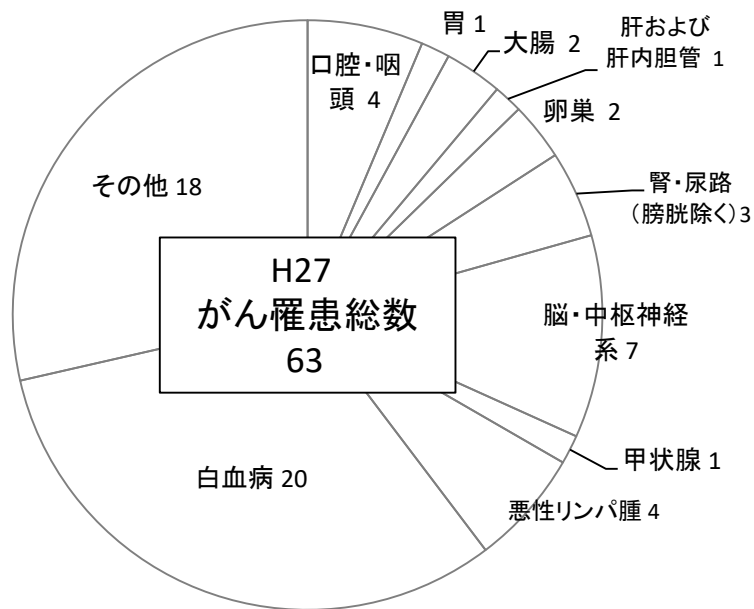
新潟県における未成年者のがん罹患数・死亡数[H27～R1]（上皮内がん除く）



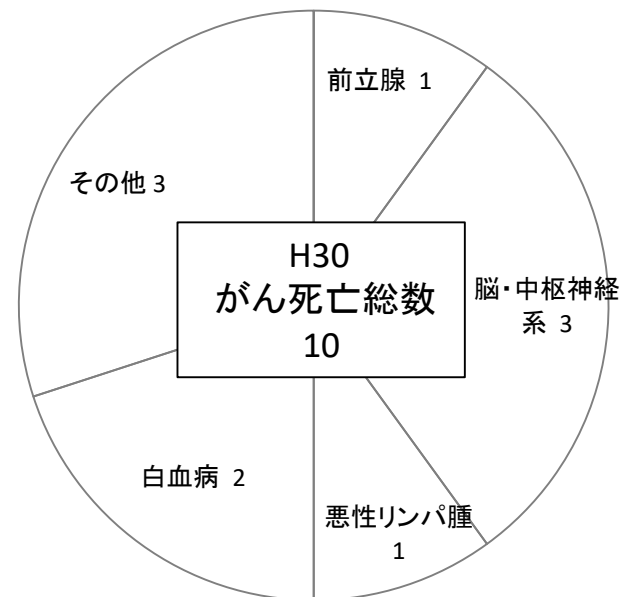
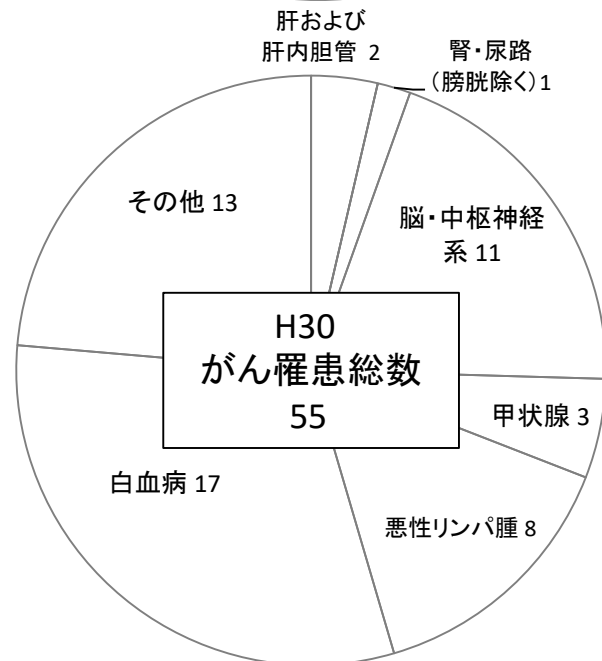
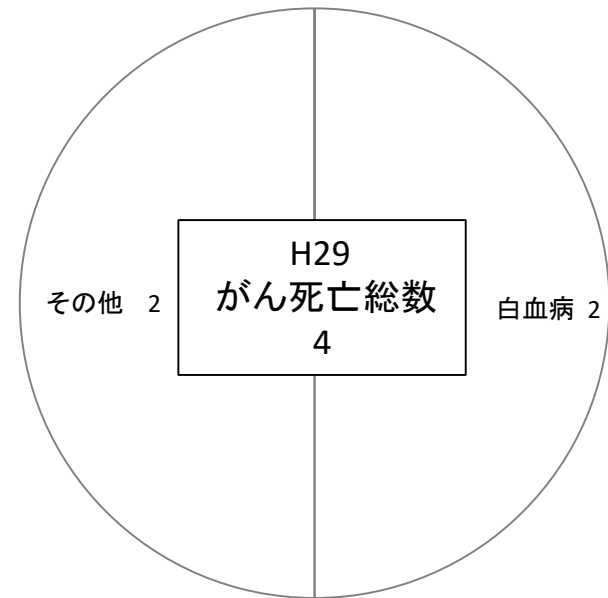
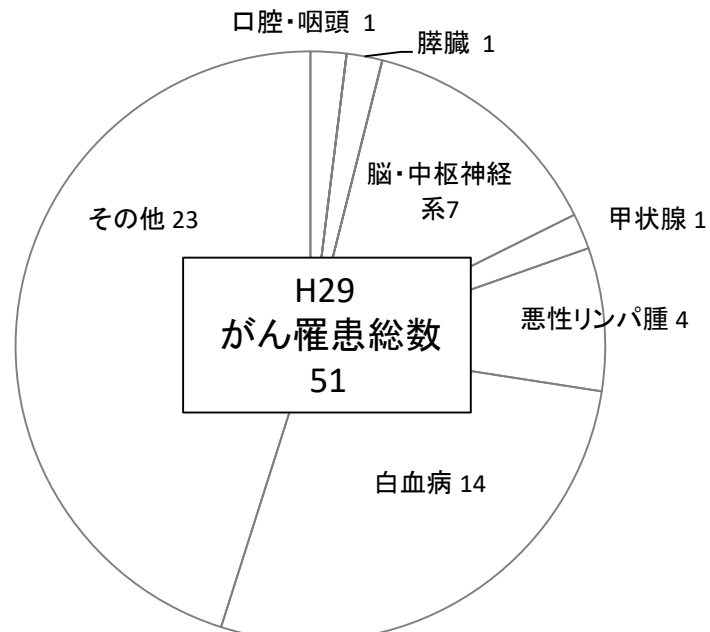
出典：新潟県のがん登録 平成27～令和元年標準集計

- ・H27～R1の5年の間に270人ががんに罹患し、33名のがんで死亡している。
- ・年間約50人ががんに罹患し、およそ6名のがんで死亡している計算になり、疾病による死亡原因の第1位である。

新潟県における未成年者のがん罹患数・死亡数〔部位別内訳〕(上皮内がん除く)



新潟県における未成年者のがん罹患数・死亡数〔部位別内訳〕(上皮内がん除く)



新潟県における未成年者のがん罹患数・死亡数〔部位別内訳〕(上皮内がん除く)

